様式第１号

指定管理者指定申請書

令和　８　年　　８　月　２５　日

（申請先）
佐賀県知事 山口 祥義 様

（申請者）

住　　所　東京都港区台場二丁目３番４号

団 体 名　宇宙科学館活性化共同事業体N&M
代表構成団体　株式会社乃村工藝社

代表者氏名　代表取締役 社長執行役員　奥本 清孝

電　　話　０３－５９６２－１１７１

佐賀県立宇宙科学館の指定管理者の指定を受けたいので、申請します。

（注）申請にあたっては、次の書類を添付してください。
① 共同事業体協定書兼委任状（様式第２号）　※共同事業体の場合
② 事業計画書（様式第３号-１（総括票）及び様式第３号-２）
③ 団体等に関する書類
- 団体概要（様式第４号）
- 指定管理者候補の選定にあたっての誓約書（様式第５号）
- 暴力団排除に係る誓約書（様式第６号）
- 定款、寄付行為又はこれらに類する書類
- 法人にあっては登記簿謄本（３か月以内に取得したもの）、その他の団体等にあっては法人登記簿謄本の記載事項を明らかにする書類（様式任意）
- 役員の名簿及び履歴書（様式任意）
- 営業（事業）報告書、又はこれに類する書類（直近２か年間分）
- 損益計算書、又はこれに類する書類（直近２か年間分）
- 貸借対照表、又はこれに類する書類（直近２か年間分）

④ 納税を証明する資料（申請日から３か月以内に発行されたもの）
- a.　消費税及び地方消費税に未納の額がないことを証する書類
- b.　都道府県税
- c. 市町村税

※ 提出する資料の詳細は、募集要項「３（３）イ」もご確認ください。
※ 共同事業体の場合は、構成員全てについて上記書類を添付してください。

佐賀県立宇宙科学館

指定管理者申請書類

様式第3号-1　総括表

様式第3号-2　事業計画書

別紙様式　支出計画明細書



2026年8月25日

宇宙科学館活性化共同事業体N ＆M

様式第3号ー1　事業計画書総括表 2

様式第3号ー2　事業計画書 3

1　施設の設置目的の確実な実施に関する事項 3
1　管理運営の方針 3
2　事業計画の確実な実施 5

2　施設の平等利用の確保に関する事項 9
1　施設の平等利用 9
2　利用料金の設定 11

3　施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項 14
1　利用者サービスの向上 14
2　施設の利用促進 23
3　更なる付加価値、利用者サービス向上のための事業展開 28
4　事業内容 29
5　SPACE PARK（スペースパーク）の管理・運営計画 48
6　提案型事業 49
7　管理経費の縮減 56

4　事業計画に沿った管理能力に関する事項 57
1　人的能力（職員体制等） 57
2　事故・災害時の対応体制 65
3　経理的基盤 72
4　県内発注の考え方について 73
5　事業実績 74

別紙様式　支出計画明細書 77

様式第３号－１　事業計画書総括表

<table>
<tr><td>管理運営の
基本方針</td><td>自然× 宇宙× 体験を未来へ。文化観光とＤＸで、次代のゆめぎんがへ進化
１　「自然× 宇宙× 体験」の価値向上　　２　文化・観光拠点としての機能強化
３　ＤＸとマーケティングによる利用促進　　４　快適で安全な利用環境の提供
５　人材育成による持続可能な運営</td></tr>
<tr><td>管理運営を
希望する目的
及び理由</td><td>当施設建設時から関わり、２０年間にわたり管理運営を担ってきた経験と専門人材、地域・学校・研究機関とのネットワークを活かし、「自然× 宇宙× 体験」の価値向上と文化・観光拠点化、ＤＸ推進を実現します。</td></tr>
<tr><td>主催事業等の
実施計画</td><td>実施を予定している主な事業（予算額は初年度）
<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業の目的・概要</th><th>予算額（千円）</th></tr>
<tr><td>展示事業</td><td>科学学習拠点機能とサービス機能の維持・向上を図る展示保守管理、企画展開催、プラネタリウム保守・運営、受付案内・解説等</td><td rowspan="6">[redacted]</td></tr>
<tr><td>教育普及事業</td><td>科学学習機会創出・拡大のための教室、イベント、学校連携等</td></tr>
<tr><td>情報提供事業</td><td>科学館情報提供のため宇宙科学館情報システム及び図書室運営等</td></tr>
<tr><td>広報誘客事業</td><td>館の認知度を高め、利用を促進する広報及び団体誘客営業等</td></tr>
<tr><td>SPACE PARK
管理・運営業務</td><td>佐賀空港における当施設のサテライトとしての広報、展示更新等</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>施設の
運営計画</td><td>１　開館時間・休館日
開館時間：平日 ９：15～17：15、土・日・祝日・ＧＷ・夏休み ９：15～18:00
休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日、ＧＷ、夏休み、春休み期間無休）、12月29日から1月1日まで
２　当施設を活用して予定している来館者サービス等
・オンラインチケット等による利便性向上
・飲食施設・ミュージアムショップを活用した滞在価値向上
・多様な利用者に配慮した安全・快適な利用環境の提供
３　人員配置計画（概要）
<table>
<tr><th>役職</th><th>人数</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>館長、統括マネージャー、グループ責任者</td><td>7</td><td rowspan="3">学芸員資格又は教員免許を有する者9名配置予定。
※報酬額は福利厚生費、通勤交通費を除く</td></tr>
<tr><td>スタッフ</td><td>20</td></tr>
<tr><td>合計人数</td><td>27</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>施設の
収支計画</td><td>指定期間中の収支予定額（単位：千円）
<table>
<tr><th>項目</th><th>令和９年度</th><th>令和10年度</th><th>令和11年度</th><th>令和12年度</th><th>令和13年度</th></tr>
<tr><td>収入の部</td><td colspan="5" rowspan="8">[redacted]</td></tr>
<tr><td>県委託料</td></tr>
<tr><td>利用料金収入</td></tr>
<tr><td>その他収入</td></tr>
<tr><td>支出の部</td></tr>
<tr><td>人件費</td></tr>
<tr><td>管理費</td></tr>
<tr><td>事業費</td></tr>
<tr><td>収支差額</td><td colspan="5">[redacted]</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>その他
特記事項</td><td>建設時から20年間の管理運営実績、JAXA・大学・研究機関等との連携実績及び本社支援体制を活かし事業計画を実現します。</td></tr>
</table>

1　管理運営の方針

自然× 宇宙× 体験の魅力を活かし、施設と地域の価値をさらに高めます

当グループの応募動機（管理運営を希望する目的及び理由）

当グループは、宇宙科学館の建設に携わった乃村工藝社と松尾建設グループのマベックによる共同事業体です。平成18年（2006年）から20年間、５期にわたって当施設の管理運営を行ってまいりました。この間「県民の教養と創造性を育み、もって本県の教育及び文化の発展に寄与する」という設置目的に立脚し、年間27万人を超える利用者に親しまれる施設への成長を実現しました。

今回の募集要項では、当施設の役割として新たに「文化・観光拠点となる科学館」が掲げられています。当グループは20年間の管理運営を通じて、年間27万人を超える県内外からの利用者が訪れる施設へと成長させるとともに、学校・地域・研究機関等との連携による多様な学びと交流を創出し、文化・観光拠点としての基盤を築いてきました。こうした実績を基盤に、今後はＤＸ・マーケティングを活用した新たな取組みにより、施設の魅力向上と利用促進を図っていきたいと考え、指定管理者の指定を申請いたします。

佐賀県が掲げる「文化・観光拠点となる科学館」の実現と、当施設が長年培ってきた「自然× 宇宙× 体験」の価値を両立し、県民の学びと交流を支える施設運営を行います。

【当グループのこれまでの成果　平成８（2006）年度～令和７（2025）年度）】

20年間の運営を通じて、「自然× 宇宙× 体験」の価値を育み、県民に親しまれる科学館へ成長

自然× 宇宙× 体験を核に、20年間にわたり展示、プラネタリウム、教育普及活動を展開し、年間27万人を超える利用者に親しまれる科学館として発展を支えてきました。また、学校や地域との連携を通じて、佐賀県の科学学習拠点としての役割を果たしてきました

【次期指定期間に求められる役割（募集要項、業務仕様書より）】

科学館としての価値を高めながら、文化観光・ＤＸ・人材育成による次なる発展へ

これからの宇宙科学館には、科学学習拠点としての役割に加え、文化・観光拠点として地域の魅力発信や交流人口の拡大に貢献することが求められています。また、ＤＸの活用による利用促進や利用者理解の深化、人材育成による持続可能な運営体制の構築など、新たな課題への対応が必要となっています

【当グループの次期の抱負・取組み】

20年の実績を基盤に、文化観光とＤＸで次代のゆめぎんがへ進化

当グループは、20年間の運営で培った専門性とネットワークを基盤に、「自然× 宇宙× 体験」の価値をさらに発展させます。そして、文化観光との連携やＤＸの活用により、学びと交流を生み出す文化・観光拠点として、次代のゆめぎんがを創造します。

管理運営ビジョン及び管理運営の方針

募集要項及び業務仕様書に記載の設置目的及びビジョン、施設に求める機能・役割等を実現するため、次のような経営理念を掲げ、実現のための管理運営方針を設定します。

【経営理念】

佐賀県立宇宙科学館は、自然× 宇宙× 体験を核に、ここでしか得られない学びと発見を生み出し、子どもも大人も繰り返し訪れたくなる科学館を目指します。そして、学校・地域・観光・研究機関等との関わりの中で、学びや体験の広がりを生み出し、文化・観光拠点として地域に価値をもたらす存在であり続けます。

【管理運営の基本方針】

自然× 宇宙× 体験を未来へ。
文化観光とＤＸで次代のゆめぎんがへの進化

基本方針 1

「自然× 宇宙× 体験」の価値をさらに磨き、ここでしか得られない学びと発見を提供します

当施設の最大の強みである「自然× 宇宙× 体験」を核とし、展示、プラネタリウム、企画展、教育普及活動を通じて、子どもから大人までが科学の面白さや発見を体感できる機会を提供します。

これまで培ってきた専門性やノウハウを継承するとともに、新たな展示手法やコンテンツを取り入れ、何度訪れても新しい学びと感動に出会える科学館を目指します。

基本方針 2

地域とのつながりを広げ、文化・観光拠点として新たな価値を創出します

佐賀県が求める文化・観光拠点としての役割を踏まえ、学校、地域団体、企業、大学、観光事業者等との連携をさらに深めます。科学館を学習施設としてだけでなく、地域の魅力や文化資源と出会うきっかけとなる場として位置付け、飲食施設やショップ、イベント等も活用しながら、地域活性化に貢献します。

基本方針 3

ＤＸとマーケティングを活用し、利用者との継続的な関係を育みます

利用者ニーズが多様化する中、従来の広報に加え、デジタル技術と利用者データを活用したマーケティングを推進します。オンラインチケッティングシステム等により把握した利用実態を分析し、ターゲットごとの広報やサービス改善につなげることで、新規利用者の獲得とリピーターの育成を図ります。

基本方針 4

来館前から来館後まで、安心で快適な利用体験を提供します

利用料金制度、接遇サービス、施設環境、安全対策を一体的に捉え、誰もが安心して利用できる施設づくりを進めます。障がいのある方や高齢者、乳幼児、外国人など多様な利用者への配慮を行うとともに、来館前の情報取得から来館後の満足感までを含めた総合的な利用体験の向上を目指します。

基本方針 5

人と組織を育て、持続可能な科学館運営を実現します

質の高い事業やサービスは人材によって支えられています。そのため、専門人材の確保と育成、知識・技術の継承、安全管理やコンプライアンスの徹底に継続して取り組みます。また、20年間の運営実績と本社支援体制を活かしながら、変化する社会環境や利用者ニーズに柔軟に対応できる持続可能な運営基盤を構築します。

2 事業計画の確実な実施

次代のゆめぎんがを支える確かな実行力を発揮します

（１） 事業計画の実現可能性

２０年間の実績と新たな取組みを組み合わせ、５つの基本方針を着実に実現します

当グループは、２０年間の管理運営で培った経験と信頼を基盤に、専門人材、地域ネットワーク、本社支援体制、ＤＸによる継続的改善を活かして、５つの基本方針に基づく事業計画を着実に推進します。さらに、「自然× 宇宙× 体験」の価値を発展させながら、文化・観光拠点としての機能を強化し、持続可能な施設運営を実現します。

次期の５つの運営基本方針

基本方針 1 「自然× 宇宙× 体験」の価値をさらに磨き、ここでしか得られない学びと発見を提供します

基本方針 2 地域とのつながりを広げ、文化・観光拠点として新たな価値を創出します

基本方針 3 ＤＸとマーケティングを活用し、利用者との継続的な関係を育みます

基本方針 4 来館前から来館後まで、安心で快適な利用体験を提供します

基本方針 5 人と組織を育て、持続可能な科学館運営を実現します

次期の事業計画で実現すること

自然× 宇宙× 体験の価値を発展 → 文化・観光拠点として進化 → 持続可能な施設運営を実現

展示、企画展、プラネタリウム、教育普及活動、学校・地域・専門機関との連携事業

地域・観光連携施策、飲食・ショップ体験の魅力化、観光ゲートウェイ機能強化

利用料金改定、ＤＸ・マーケティング、来館体験向上、人材育成、安全管理

事業計画を実現する当グループの５つの運営基盤

1	2	3	4	5
２０年の運営実績	２７名の専門人材	幅広いネットワーク	本社支援体制	ＤＸによるＰＤＣＡ

次ページに、当グループの事業計画を支える５つの実現基盤について示します。

事業計画の５つの実現基盤

実現基盤 1 20年間の運営実績

当グループは建設時から当施設に関わり、指定管理者として20年間にわたり当施設の管理運営を担い、「自然× 宇宙× 体験」を核とした施設運営を継続してきました。これまでに培った運営ノウハウや利用者との信頼関係を活かし、次期指定期間においても安定した運営と着実な事業推進を実現します。

＜実現を支える強み＞

- 20年間の継続運営
- 年間来館者数279,888人の実績(R7)
- 累計600万人達成の信頼



実現基盤 2 専門人材による運営体制

展示運営、教育普及、広報営業、施設管理など各分野の専門人材を配置し、組織的に計画を推進します。20年間の経験を持つスタッフと新たな人材を組み合わせ、質の高いサービスを提供します。

＜実現を支える強み＞

- プラネタリウム年間観覧者79,826人の実績(R7)
- ワークショップ年間参加者7,357人の実績(R7)
- 教育普及活動の継続的実施



実現基盤 3 地域・学校・専門機関ネットワーク

学校、大学、研究機関、地域団体、観光事業者との連携関係を活かし、単独では実現できない事業や地域と一体となった取組みを展開します。

＜実現を支える強み＞

- 年間延べ1,000人超への出張プログラム(R7)
- JAXA、大学等との広範な連携
- 学校、地域団体との継続連携



実現基盤 4 本社支援体制

本社担当窓口や法務、労務、安全管理、経理、人事、IT等の専門部門が現場運営を支援し、安定した施設運営と課題解決をバックアップします。

＜実現を支える強み＞

- 展示・施設運営の専門ノウハウ
- 法務・労務・安全管理支援
- 代表企業19施設の運営知見
- 県内施設維持管理ネットワーク

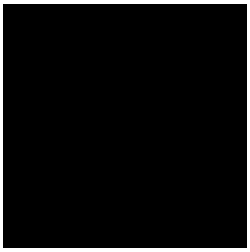


実現基盤 5 DXによる継続的改善

オンラインチケッティングシステムや利用者データを活用し、利用実態を把握しながら事業や広報を改善します。経験や勘だけに頼らない、データに基づく施設運営を推進します。

＜実現を支える強み＞

- HP・SNS・YouTube運用実績
- 地域メディアとの連携実績
- オンラインチケット・CRM 導入



５つの基本方針を実現する重点施策

方針	主な施策	記載様式、ページ
基本方針 1 **「自然x 宇宙x 体験」の価値をさらに磨き、ここでしか得られない学びと発見を提供します**	● 展示・企画展・プラネタリウムを一体的に展開し、「何度も訪れたくなる科学館」を実現 ● 学校利用拡大と教育普及活動の充実により、県内学習拠点としての役割を強化	➢ 3-4-（3）-①②常設展示の運営計画、企画展示等の運営計画 p.31 ➢ 3-4-（3）-⑤教育・生涯学習支援の計画 p.41
基本方針 2 **地域とのつながりを広げ、文化・観光拠点として新たな価値を創出します**	● 学校・地域・観光事業者との連携強化により交流人口を拡大 ● 利用料金の増収による収益を活用したショップ改修による文化観光機能の強化 ● IP連携や、企画展やプラネタリウムとショップ・飲食の連携による観光誘客力の強化 ● 飲食施設・ショップ・ユニークベニューを活用し、滞在価値を向上	➢ 3-2-（2）誘客活動に関する業務計画 p.26 ➢ 3-3 更なる付加価値、利用者サービス向上のための事業展開 p.28 ➢ 3-4-（5）文化・観光拠点としての取組み p.46 ➢ 3-6 提案型事業 p.49
基本方針 3 **ＤＸとマーケティングを活用し、利用者との継続的な関係を育みます**	● オンラインチケッティングと利用者データの収集・分析 ● 利用者データを活用したマーケティングとCRMの実践	➢ 3-1-（4）デジタル技術やITの活用 p.18 ➢ 3-2-（1）広報に関する業務計画 p.23
基本方針 4 **来館前から来館後まで、安心で快適な利用体験を提供します**	● 誘もが利用しやすいインクルーシブな施設運営 ● [redacted]サービス向上による顧客満足度向上 ● オンラインチケッティングによる入館の円滑化と混雑緩和 ● 子育て世代が・安心して過ごせる利用環境の充実	➢ 2-1 施設の平等利用 p.9 ➢ 2-2 利用料金の設定 p.11 ➢ 3-1-（4）デジタル技術やITの活用 p.20 ➢ 3-4-（3）-①常設展示の運営計画 p.35
基本方針 5 **人と組織を育て、持続可能な科学館運営を実現します**	● 専門人材の確保・育成と知識・技術の継承 ● 本社支援体制を活用した組織力強化 ● 安全管理・危機管理・コンプライアンス体制の強化	➢ 4-1 人的能力（職員体制等） p.57 ➢ 4-1 人的能力（職員体制等） p.58 ➢ 4-2 事故・災害等の対応体制 p.65

（２） 収支計画の実現可能性

① 収入計画

以下に記載の算出根拠に基づいて積算した収入計画は次の通りとします。

（単位：千円）

区分	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
利用料金収入	[redacted]				
入館料収入					
その他収入					
企画展観覧料					
科学教室参加料					
雑収入					
県委託料					
合計					

【算出根拠】

◆利用料金収入は、以下のページに記載の利用料金及び利用者数の想定に基づいて算出しています。

・利用料金の設定について ⇒ p.11 参照

・年間の利用者数、利用料金収入の想定について ⇒ p.13 参照

② 支出計画

支出計画は次の通りです。内訳につきましては当計画書末尾の頁（p.77～81）の「支出計画明細書」をご参照ください。

（単位：千円）

区分	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
人件費	[redacted]				
常勤職員					
管理費					
事業費					
展示事業					
教育普及事業					
情報提供事業					
広報誘客事業					
SPACE PARK 管理・運営事業					
合計					

1　施設の平等利用

多様な県民が安心して利用できる施設を目指します

施設の管理運営に当たっては、人権を尊重し、地方自治法「第十章　公の施設」を遵守し、利用者が施設を利用することを拒んだり、不当な差別的取扱いを絶対に行いません。また、私的な理由で特定の個人や団体を優遇するような行為は行いません。

（１）　利用料金の減免措置などの生活弱者等への配慮

生活弱者等の配慮として、次の対象者は観覧料（常設展、プラネタリウムとも）を免除します。

- 障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）保持者及び介護者１名
- ０～２歳児

また、障がいのある方や高齢者、乳幼児、外国人など多様な利用者が、宇宙科学館における学びや体験を安心して享受できるよう、インクルーシブな対応を図ります。また、「障害のあるなしにかかわらず、ともに暮らしやすい佐賀県をつくる条例」に基づき、マニュアルを策定し、「障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合い、支え合いながら、ともに生きる社会、誰もが安心して暮らせる社会を目指す」ために合理的配慮の提供に努めてまいります。

対応区分	対応・配慮
総合対応	● 多目的トイレ（１Ｆ、３Ｆ）　、オストメイト対応トイレ（３Ｆ） ● 身障者用駐車場６台 ● 補助犬・盲導犬・介助犬・聴導犬の入場可 ● 常設展示ガイドツアー実施時の障がいやハンデキャップ全般への配慮
視覚障がい	● 点字版リーレットによる案内 ● プラネタリウムではアテンダントの目の届く席にご案内し緊急時に備える
聴覚障がい	● 電子メモパッドでの筆談案内 ● プラネタリウムにおける字幕付き投映、アシストホーン（聴覚補助システム）貸出し
車いす利用者	● 天文台への階段に昇降機を設置 ● 車いすで利用できる安全な体験装置のご案内
感覚過敏・発達障害	● カームダウンスペースの設置
高齢者	● 車いすの貸出し ● 大きな文字での表示
乳幼児	● ベビーカーの貸出し ● 授乳、おむつ交換スペースの設置 ● 幼児向け「はじめてのプラネタリウム」の投映
外国人	● やさしい日本語による案内 ● デジタルツールを活用した多言語対応（ＡＩ翻訳、音声翻訳等） ● リーフレットによる案内「中国語（北京語、広東語）韓国語、英語」
デジタルデバイド	● ＤＸ導入における、デジタルに不慣れな方やスマートフォンを持たない利用者への配慮

（２）　施設の利用計画

企画展示室、ガイダンス室、プラネタリウムなどの館内施設のうち、利用料金を徴収して、住民・企業等の利用を認める計画は現在はありません。

施設の利用に対する基本的な考え方としては、県内の団体等から利用の申し入れが発生した際に、用途が施設の設置目的に直接つながるものであれば団体との共催の可能性も含めて検討します。そうでない場合でも当施設の基本的性格である「県民協働の場となる科学館：県民と協働して育む施設として、県民どうしが交流し合い、コミュニケーションを深め合える場を提供する。」につながり、公平性が担保できて、宇宙科学館の事業実施への影響がなければ前向きに検討し、県とも協議の上対応していきます。

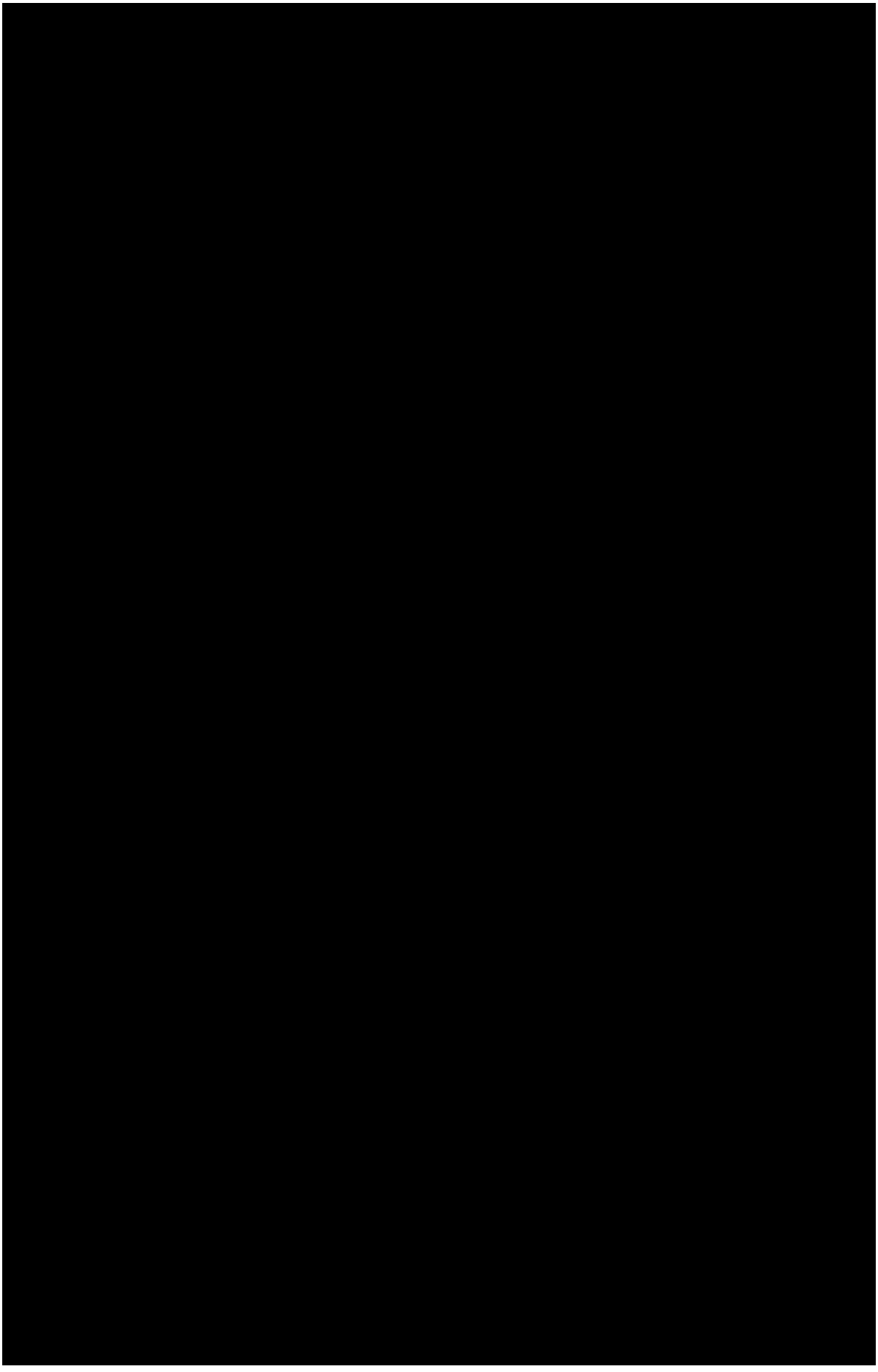
また、学校、大学、企業、市民団体等との連携による科学教育・探究学習・地域交流活動については、施設の設置目的及び公平性を踏まえながら積極的に検討します。

（３）　利用の制限の基本方針

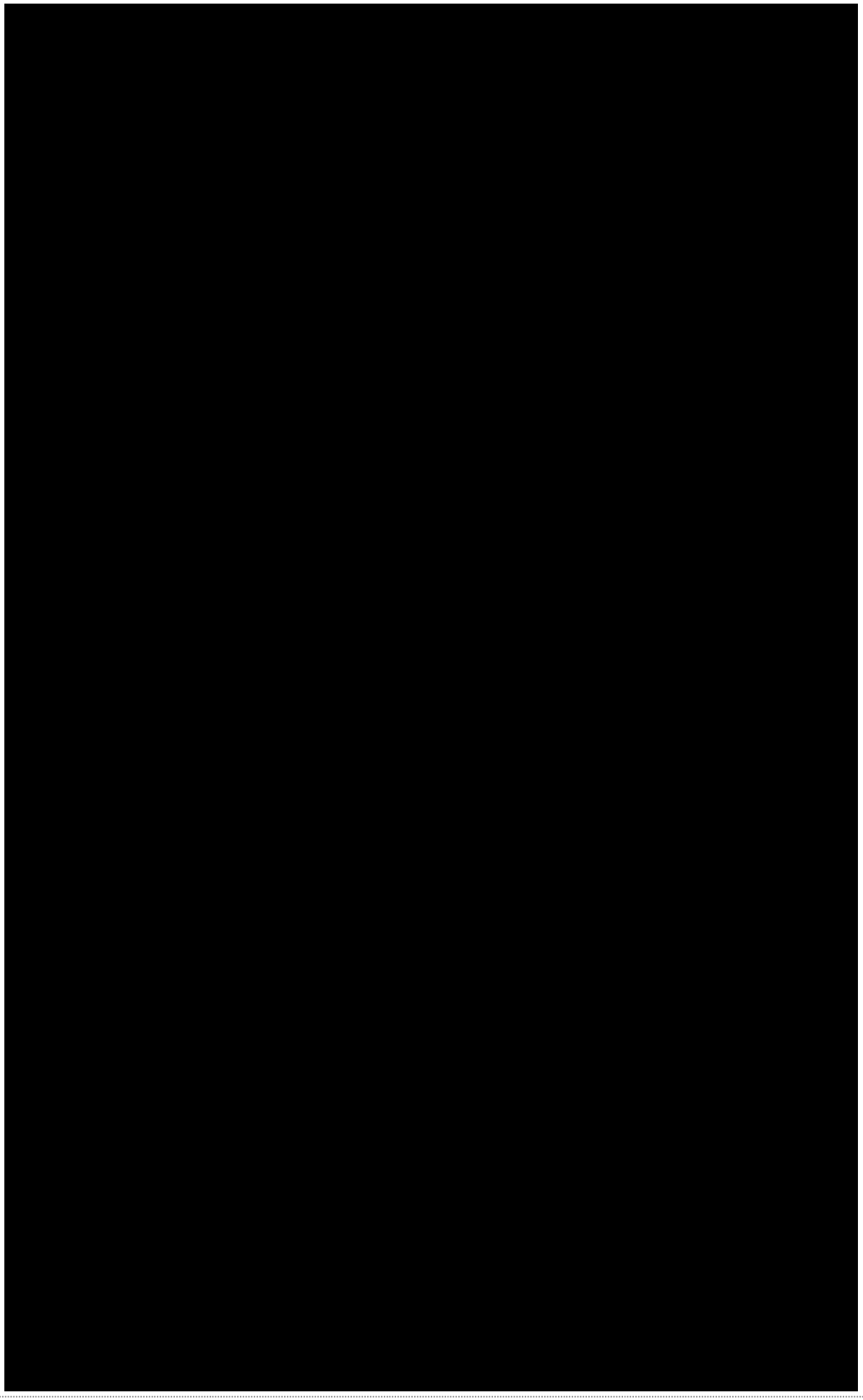
お客様に安心してご利用いただくために、「佐賀県立宇宙科学館条例施行規則」第６条の使用の制限に基づき、次の場合には入館拒否や退館などの使用の制限を行います。

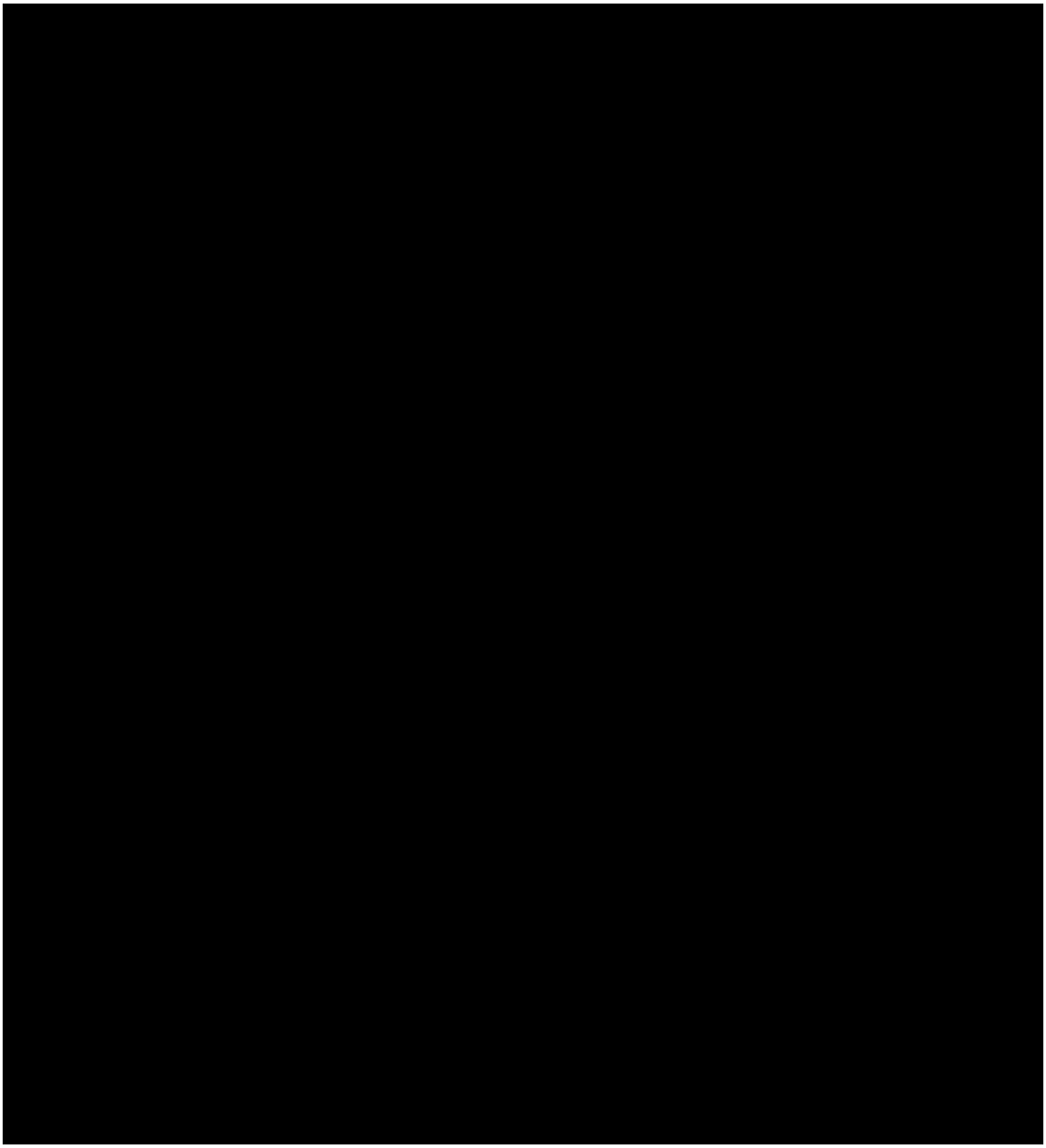
制限事項	• 宇宙科学館の設置目的に反する使用をするおそれがある場合 • 善良の風俗を害する恐れがある場合 • 青少年の健全な育成に悪影響を与えるおそれがある場合 • 集団的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある場合 • 宇宙科学館内の秩序を乱すおそれがある場合 • めいていや騒音・大音量等により他の利用者の妨げとなるおそれがある場合 • 宇宙科学館の施設又は設備を棄損し、又は汚損するおそれがある場合 • 佐賀県のカスタマーハラスメント対応方針等を踏まえ、スタッフに対する暴言、威迫行為等、カスタマーハラスメントと認められる行為により、施設の安全確保及び快適な利用環境維持の妨げとなるおそれがある場合 • 上記のほか、宇宙科学館の管理運営上支障があると認められる場合
使用の許可の 取り消し及び中止	• 条例及び条例に基づく規則に違反したとき • 使用制限事項を守らないとき • 虚偽その他不正な行為により使用の許可を受けた場合 • 許可された目的以外で施設を使用したとき • 公益上やむを得ない事由が生じた場合 • その他、指定管理者の指示に従わない場合

2　利用料金の設定



2　施設の平等利用の確保に関する事項





④ 利用料金増収分の使途

利用料金の増収分については、展示更新や企画展の充実、ＤＸ推進、設備更新など、利用者サービス向上のための施策に重点的に活用します。

これにより、より魅力的で快適な科学館づくりを進めるとともに、自主財源の確保による経営基盤の強化を図ります。さらに、安定した運営体制の構築を通じて、将来的な県財政負担の軽減にも寄与します。

1　利用者サービスの向上

利用者ニーズを把握し、サービス向上につなげる仕組みを構築します

公共施設として、また県の科学学習拠点として、利用者に気持ちよく、安全に過ごしていただくことをサービスの基本とします。利用者をお迎えするスタッフのコミュニケーションと、入館者データの分析の両輪で、サービスの質を高めていきます。

（１）　受付・展示解説等の案内、安全指導業務の計画

利用者の「科学する心」を育むお手伝い役として、当施設での体験の満足度を高めます。

①　人員の適切な配置計画

- アテンダントは受付案内及び展示の安全指導に必要なポストを設定し、繁閑に応じて過不足ない人数を配置します。
- インフォメーションの人員は、繁忙期には入館時に利用者をできるだけお待たせしないよう増員し、冬期などの閑散期には、利用者の要望に応じた展示ガイドツアーにも対応します。
- インバウンド増加や障害者の方への対応として、日常英会話のできるスタッフを常時1名以上の配置、またスタッフ全員に簡単な英会話や聴覚障害者向けの手話訓練を行います。

＜配置ポスト・人数＞（単位：人）

ポスト・役割	平日	土曜日	日祝	ＧＷ・夏休み
インフォメーション（１階） 誘導、案内、チケット発券、団体利用受付、各種問合せ、遺失物、迷子対応、車いす・ベビーカーの貸出　等 展示ガイドツアー（団体予約時、閑散時）、その他巡回	[redacted]			
地球発見ゾーン（1，2階） スペースサイクリング乗車・降車、ＭＯＯＮ　ＤⅣＥ補助、－20℃の世界補助				
佐賀発見ゾーン（１階） 地震体験マシーン補助				
宇宙発見ゾーン（３階） グラヴィティジャンプ、整理券発券補助、プラネッツホッパー				
プラネタリウム（３階） もぎり、誘導案内、安全管理　等				
配置人数				

②　業務方式（外部委託）

- 受付案内業務は外部委託とし、当グループ構成員のマベックと同じ松尾建設のグループ会社で、当施設で20年にわたりサービス向上の一翼を担ってきた[redacted]に委託します。
- 委託にあたっては、毎年度の業務開始前に、業務仕様に基づく年間計画の提出を受け、実績のモニタリングを月次、年次で行い、業務品質の向上を図っていきます。

（２） 利用者の意見の収集、入館者の状況分析及び反映に関する取組み

来館される全ての方に楽しんでもらえるように、利用者の要望及び入館者の状況を把握し、施設運営の改善に反映します。公の施設にふさわしい公平・公正さを基本としながら、ＰＤＣＡによる改善活動を行い、利用者満足度の高い施設づくりを実現します。

① 利用者の要望、提案の把握方法

利用者の要望、提案の把握は接客対面、アンケート、周囲からの聞き込み、Ｗｅｂ口コミサイトやＳＮＳ投稿の反応等によって行います。

実施方法（頻度）	内容	実施担当者
業務日誌（日次）	苦情が発生した場合に記録	統括マネージャー
接遇による気づき（日次）	利用者の声や要望、直接聞いた感想などをノートに記録	アテンダント
お客様アンケート（日次）	館内の目立つ場所三か所に設置し、常時回答を収集	広報営業Ｇ
対面式アンケート（定期）	サンプル量を確保するために定期的に実施。来館動機、認知媒体、印象、再訪意思、感想等をポイントを絞ってヒアリング	広報営業Ｇ
団体引率者アンケート（随時）	団体の引率者の満足度調査	広報営業Ｇ
企画展アンケート（年3回） イベントアンケート（随時） プラネタリウムアンケート（随時）	企画展やイベント毎に合わせて調査項目を作成する。 今後は非接触型のアンケートも導入予定。	研究交流Ｇ
周囲の聞き込み（随時）	宿泊施設や観光従事者、関係者等からの評判や要望の聞き込み	広報営業Ｇ
ＳＮＳ等検索調査（定期）	Ｇｏｏｇｌｅマップや旅行サイトなどの口コミサイト及びＩｎｓｔａｇｒａｍ 等のＳＮＳサイトでの当施設の評判や批判を検索し、集約	広報営業Ｇ

② 利用者データの収集と利用実態の把握方法

オンラインチケッティングシステムを導入し、販売データを継続的に取得します。これにより、これまで十分に把握しきれなかった利用者の来館傾向や属性、企画・イベントごとの利用状況を可視化し、利用者サービスの向上、広報施策の改善、繁閑に応じた運営体制の最適化につなげます。

※オンラインチケッティングシステムの詳細は、「３－（４）デジタル技術やＩＴの活用」に記載します。

実施方法	内容	実施担当者
オンラインチケッティング（常時）	チケット販売データを記録・蓄積し、日にち、曜日、時間帯、天候ごとの販売数・販売金額等を把握。 また、購入者が登録したＩＤ情報に基づき、年代、居住地、来館頻度等の属性データを取得	経営管理Ｇ

③ 利用者の声を活かした運営改善の取組み

利用者からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、誠意を持って迅速に対応します。

- 意見は即対応が必要なもの、一定期間内に対応するもの、予算措置などが必要で時間をかけて解決するもの、対応が難しいものに振り分けます。
- 即時改善が必要な苦情や要望については統括マネージャーの判断・指示の下ですぐに対策を講じて改善し、スタッフに周知します。
- 改善に向け、検討や時間が必要な事項については館長、統括マネージャー、関係部署のマネージャーが話し合いを行い、必要によっては県とも協議して改善を図ります。
- アンケートや聞き込みの中で接客に関する意見や要望、評価やご指摘があった場合には、委託先担当者を通じて確実にアテンダントにフィードバックします。
- 日々収集される利用者の声は毎日の朝礼でスタッフに周知します。
- アンケートの意見記述欄や聞き込みで参考とすべき意見はテキストとして記録を残します。
- アンケート分析は四半期ごとに行い、結果を報告書にまとめます。
- 周囲の聞き込みでは来訪者で宇宙科学館を利用しない方の理由についても探るようにします。
- ＳＮＳ等検索調査は施設内ではつかめない利用者の満足、不満足を把握するために有効であり、引き続き定期的な調査を実施し、施設運営の改善を図ります。

④ データ分析を活かした運営改善の取組み

入館者数やチケット販売データ、来館日時、利用者属性、来館頻度、企画・イベント参加状況等を継続的に分析し、利用者の動向を可視化します。分析結果は、繁閑に応じた人員配置や案内体制の見直し、企画・イベント内容の改善、広報・誘客施策の最適化、利用者サービスの向上と施設運営の効率化につなげます。また、分析結果は四半期ごとに整理・共有し、必要に応じて県とも協議しながら、施設の効用の最大化と管理経費の適正化を図ります。

- 曜日・時間帯・季節ごとの来館傾向を把握し、繁忙期の案内体制や閑散期の利用促進策を検討します。
- 企画展、イベント、プラネタリウム、体験プログラムごとの利用状況を分析し、テーマ設定、開催時期、広報方法、参加導線の改善につなげます。
- 利用者の居住地や来館頻度を把握し、県内外の利用者、リピーター、初利用者など、対象に応じた広報・誘客施策を展開します。
- 無料入館者についても可能な範囲で利用状況を把握し、サービス向上を図ります。
- 分析結果は四半期ごとに整理し、館内で共有するとともに、必要に応じて県とも協議しながら、施設の効用の最大化と管理経費の適正化につなげます。



（３） 開館日、開館時間等

当グループはこれまで、学校団体の利用に配慮して開館時刻を早めたり、或るは利用者が極めて少ない閑散日の閉館時刻を早めたりするなど、利便性向上やコスト効率の改善に努めてきました。近年は働き方改革への対応も求められていますが、現状の開館日と開館時間は、利用者に開かれた科学館として合理的で無理のない水準にあると認識しており、これを踏襲します。

① 休館日

休館日	● 毎週月曜日（春・夏休み・ゴールデンウイークを除く） ※月曜日が祝日の場合は翌平日 ※春・夏休み・ゴールデンウイーク期間中は、無休 ● 年末年始（12月29日～1月1日） ※年始は1月2日より開館
臨時休館	全館総点検及びメンテナンス対応のため、臨時休館の設定を申請します。 ● ゴールデンウイーク期間後の休館日の翌平日 ● 2月の第一火曜日 ● 9月第1週もしくは第2週の火～木曜日　3日間

② 開館時間

平日	● 9:15～17:15（開館8時間） ※ゴールデンウイーク期間、夏休み期間の平日を除く
土・日・祝日 及び ゴールデンウイーク期間、 夏休み期間の平日	● 9:15～18:00（開館8時間45分） ※毎週土曜日はサタデーナイトプラネタリウム（18:00～18:40） 天体観望会（3～9月　20:00～21:30 ／ 10～2月　19:00～20:30） を実施

（以下、余白）

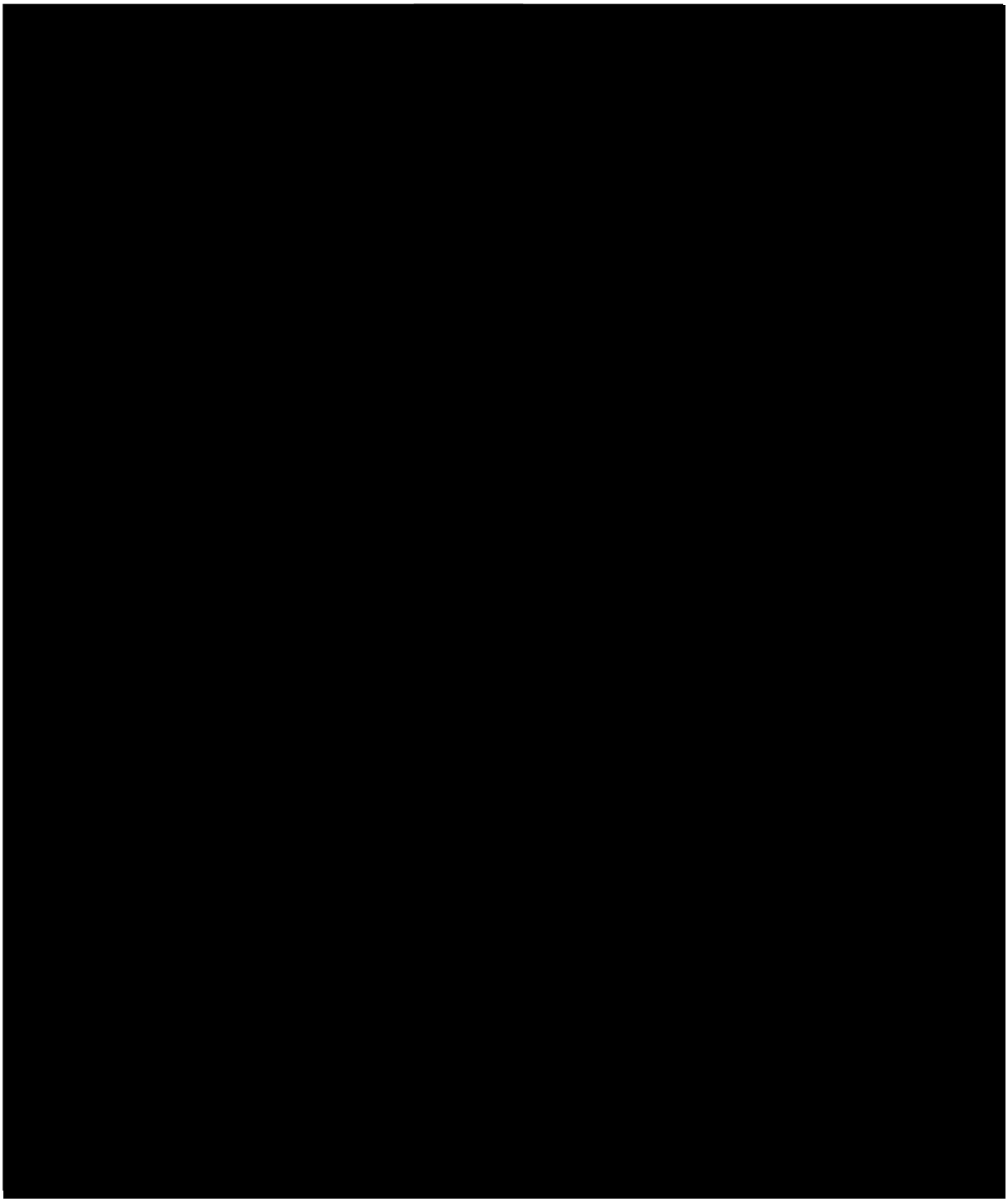
（４） デジタル技術やITの活用

① オンラインチケッティングによる来館体験向上とデータ活用基盤整備

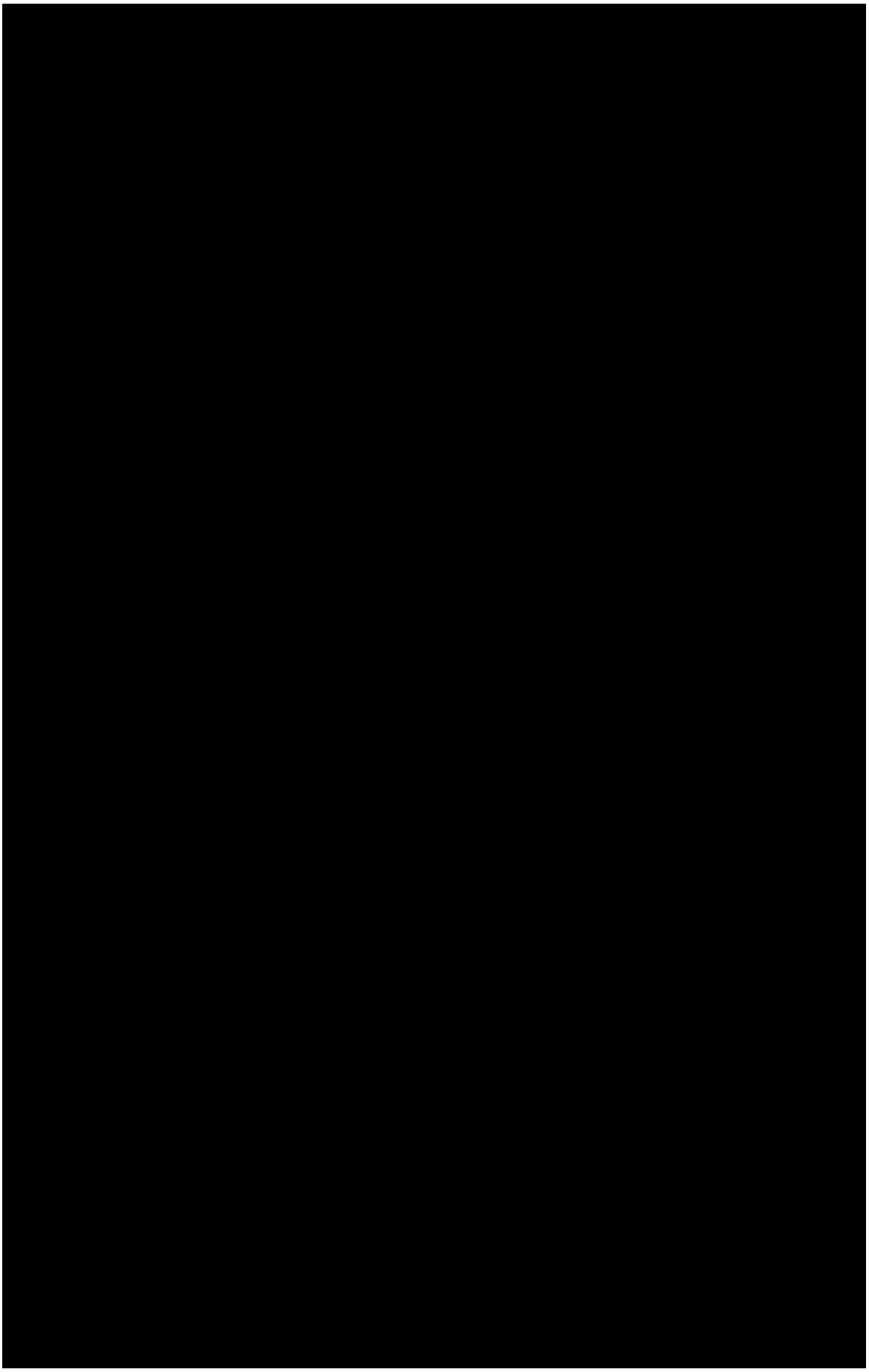
これまで当施設のチケット販売は窓口での対面販売を基本としており、利用者の属性や来館傾向、購入履歴等のデータを十分に蓄積・分析することが難しい状況にありました。第６期では、オンラインチケッティングシステムを導入し、事前購入による入館時の混雑緩和と来館動線の円滑化を図るとともに、利用者データを継続的に取得・分析できる仕組みを構築します。

これにより、利用者の利便性向上、混雑緩和による快適な来館環境の実現に加え、利用者データを継続的に蓄積・分析することで、企画展やイベントの改善、効果的な広報、リピーター育成へとつなげます。

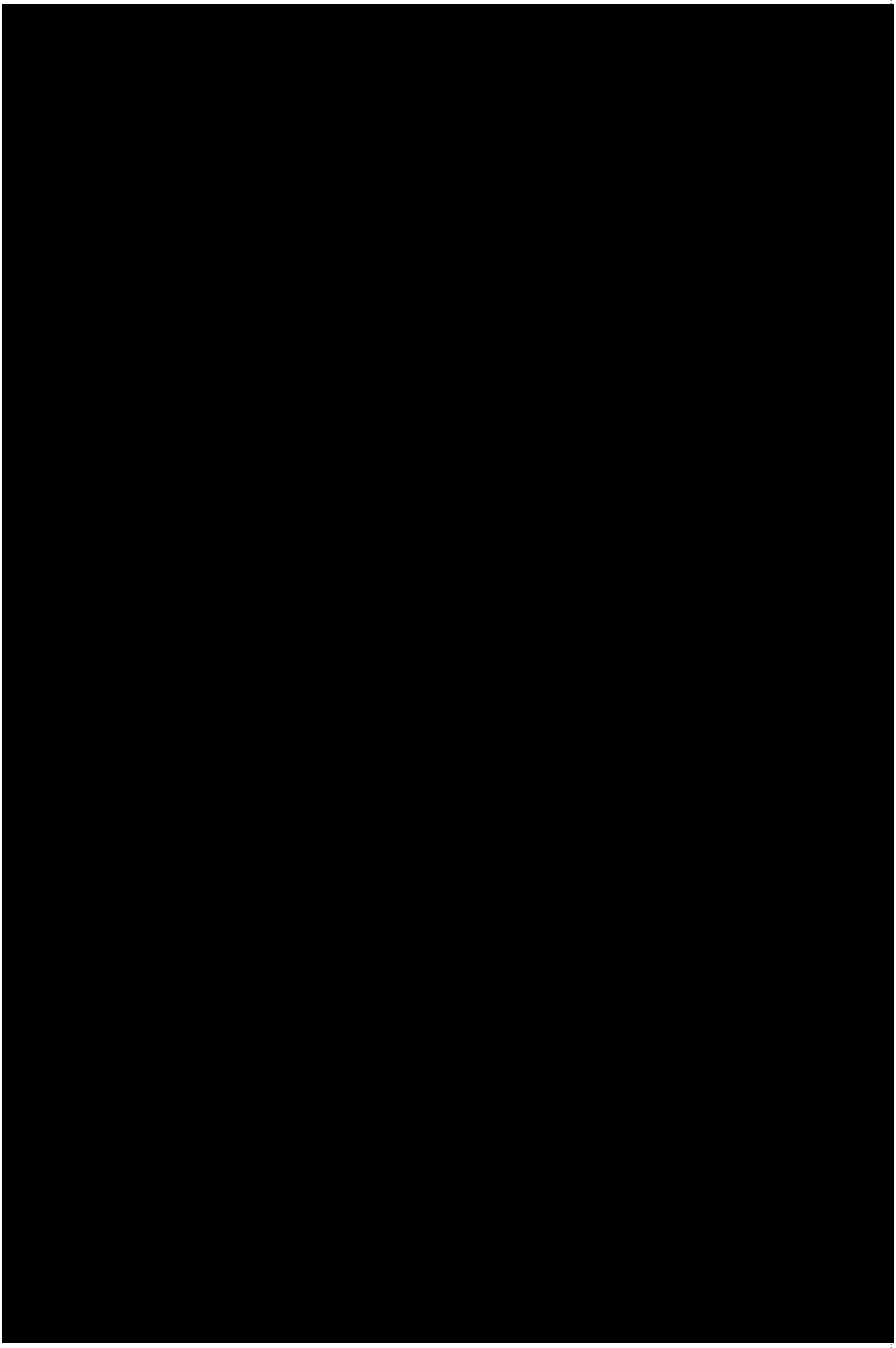
①　導入システムの特徴



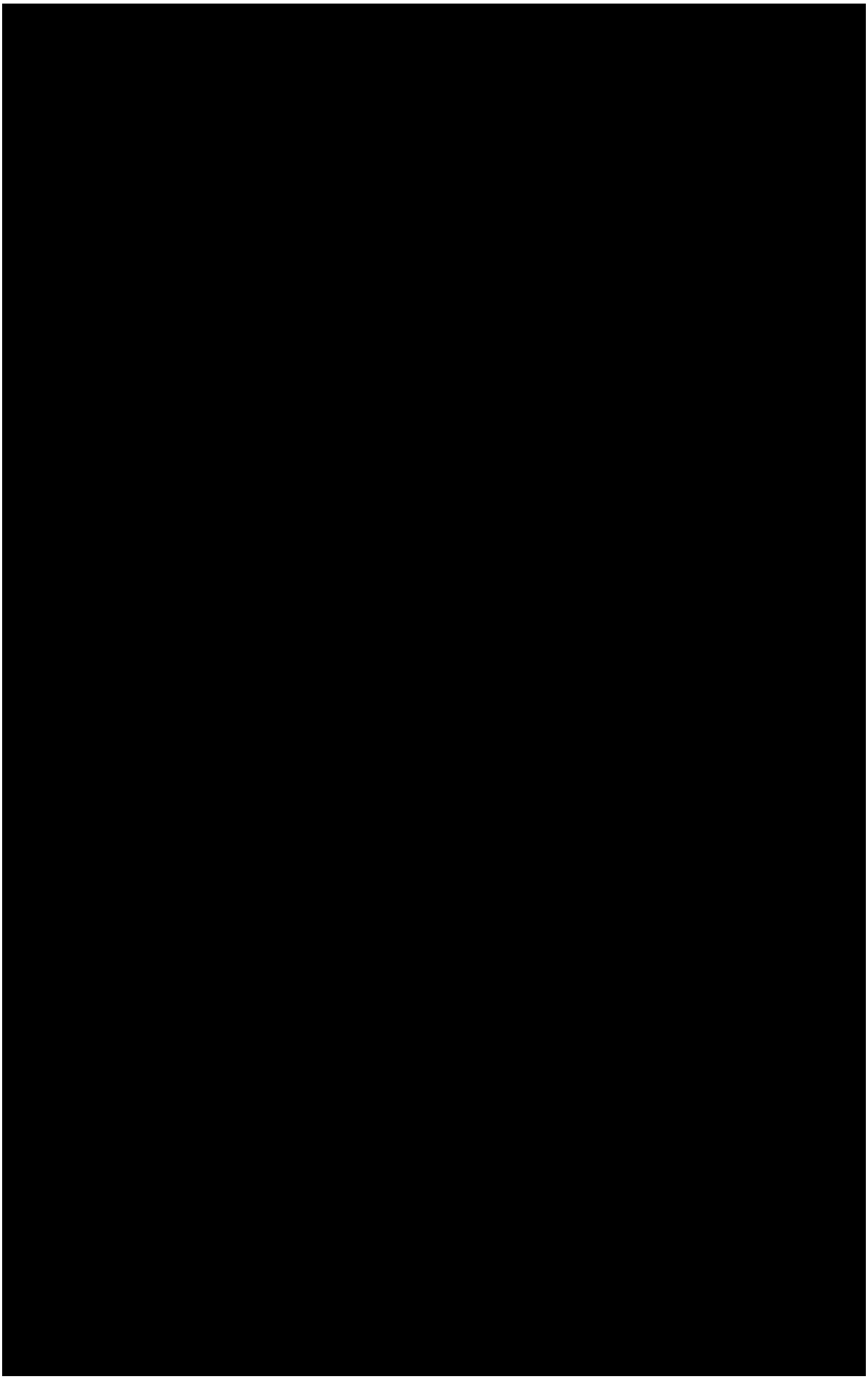
②　オンラインチケッティングを活用した利用者サービス向上サイクル



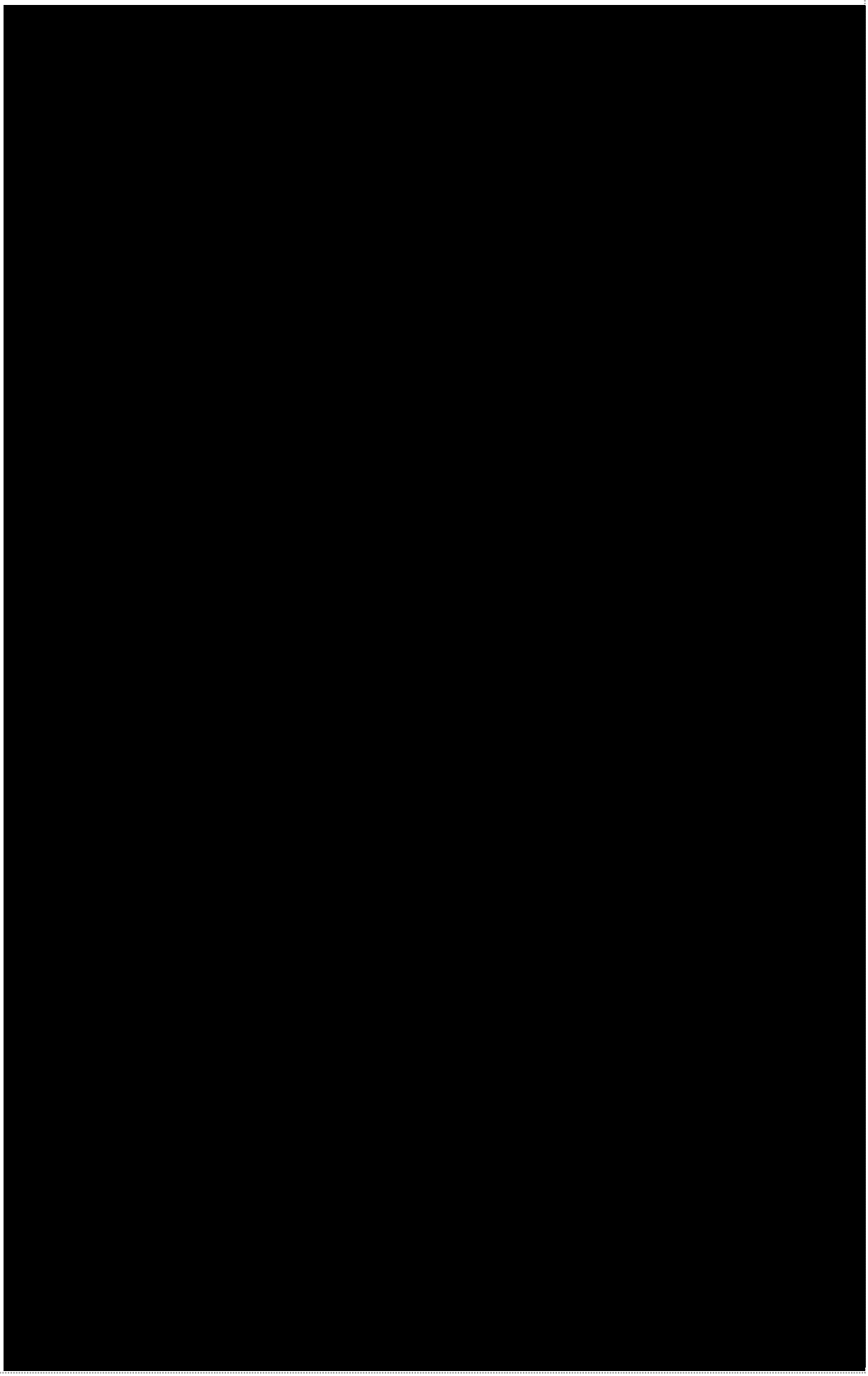
③　オンラインチケッティング導入による効果



3 施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項



3 施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項



2　施設の利用促進

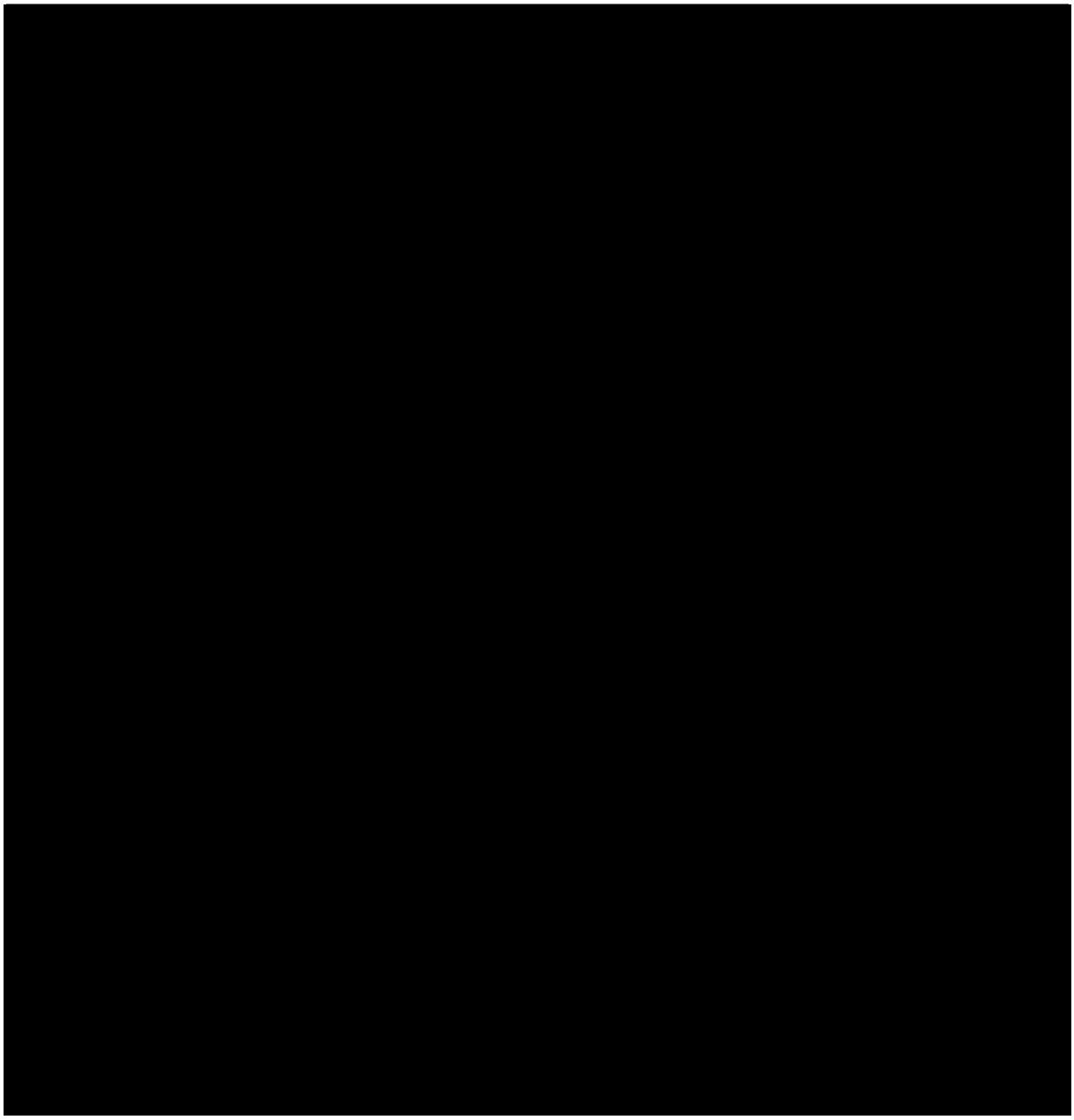
データ活用とターゲット戦略を基盤とした広報・利用促進策を実施します

（１）広報に関する業務計画

データ分析に基づくターゲット別広報を推進します

3-1-（4）デジタル技術やITの活用の項目に記載のとおり、オンラインチケッティングシステムにより取得した利用者データを分析し、年代、居住地、来館頻度、興味関心に応じた広報施策を展開します。利用者ごとに最適な情報発信を行うことで、新規来館者の獲得とリピーター育成を両立します。さらに広報の効果を検証し、より多くの人々に当館の情報が効果的に届くよう、媒体や発信・配布先等を考慮し、積極的な広報活動を行います。県の科学館として、より多くの県民の認知度を高め、利用の機会を創出するための広報にも取り組みます。

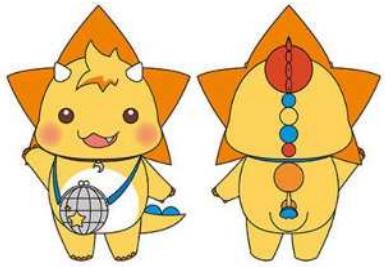
【データ分析に基づく広報・誘客サイクル】



① 自主媒体による広報

ポスターやチラシ、公式ウェブサイト、ＳＮＳ等を企画・制作し、企画展やプラネタリウム番組などの情報や、当施設の話題を広く発信します。

媒体の企画・デザインは、幼児から大人まで、科学に関心のない人にも親しみやすいイメージを大切にし、公式マスコットキャラクターの「ゆめぎんが★ウーたん」をシンボルとして活用します。



公式キャラクター「ゆめぎんが★ウーたん」

【自主媒体による広報活動】

自主媒体	実施内容、対象、頻度、部数等
企画展ポスター、チラシ	● 目的：企画展及び関連イベントの周知による来館促進 ● 内容：企画展の開催内容や期間中のイベント内容 ● 対象：県内小学校児童へ一人1枚配布 県内中学・高校や県内公共施設、近隣の宿泊施設や観光施設に配布 郵送対応可能な県外の公共施設（博物館や図書館等） イベント内容により、ターゲット層に合う効果的な対象（大学、専門組織等）
リーフレット	● 目的：新規来館を促進するとともに、観光・教育利用における基本情報を提供 ● 内容：館の展示、プラネタリウム、施設等の魅力や利用方法の総合的紹介 ● 対象：初めて来館を検討する方観光客学校関係者ファミリー層団体利用検討者 設置場所として、県内公共施設、図書館・博物館、地元宿泊施設、 道の駅、周辺観光施設、各種イベント会場　等
公式ＷＥＢサイト	● 目的：当施設に興味を持った人に対し、必要な情報を提供し来館につなげる ● 内容：イベント情報：イベント開催案内等、必要な情報をタイムリーに発信 館の活動紹介：科学館の活動を紹介することで内容に厚みを加える アーカイブ：過去の情報も蓄積し、メディア・学校等の検索に対応する ● 対象：検索エンジンの分析ツールを用いて閲覧者データを把握・分析 閲覧者の目的や特性に合わせた情報内容
ＳＮＳ	● 目的：専門情報のみならず、アニメファンなど幅広い層にタイムリーな情報を発信する ● 内容：イベント情報、ショップ情報、アニメコラボ情報など Ｘ：フォロワー数11,604人（7/31現在） 企画展情報、イベント参加募集、イベント当日情報、 休館等のお知らせ、科学・天文・宇宙等ニュース関連情報　等 Instagram　：フォロワー数5,511人（7/31現在） 上記に加えて館内外の近況写真・動画　等 YouTube：チャンネル登録者数6,910人（7/31現在） 企画展の楽しみ方、コラボアニメファンに向けた楽しみ方情報等

② マスメディアＰＲ、イベントＰＲ

マスメディアに対し、年間を通じてタイムリーかつ新鮮な話題を提供するとともに、ローカルメディアからキー局の全国放送まで、取材や番組制作等の依頼に丁寧に対応し、当施設のイベントや学習活動を取り上げていただくことで、県の科学学習拠点としての認知度や存在感を高めるよう努めます。地元メディアには年間を通じて継続的に話題を取り上げていただいており、今後も県民をはじめとする人々に広く親しまれ、役立つ記事や番組の制作に協力することで、当施設への来館を促進し、科学への興味関心を深めていただくことを目指します。

また、県内外からの多くの集客のあるイベントに出向き、当施設の認知度を高める広報活動を年間を通じて行います。

【マスメディア活用、イベント連携によるＰＲ活動】

活動	内容
佐賀新聞連載	● 佐賀新聞の連載コーナー「ゆめぎんが通信」に定期的（月1回程度）寄稿し、科学館の活動や最新のイベント情報を発信します。 ● 館長やスタッフが自ら執筆し、企画展のこだわりや科学・宇宙にまつわる話題を分かりやすく解説します。現場での奮闘ぶりが伝わる内容です。
プレスリリース	● 全国のメディアに対し、プレスリリース情報を発信し、記事掲載や番組での取り上げにつなげます。 ● プレスリリース配信サービス「PR TIMES」を活用し、企画展の告知情報等を最大200社に向けて配信します。内容に応じ、配信対象を選定します。
内覧会開催	● 企画展開催前に、県内、福岡、熊本、長崎など、九州北部エリアを中心としたメディア関係者を招待し、内覧会を開催します。テレビや新聞の取材を通じ、企画展の魅力や楽しみ方の周知を図ります。
メディアへの営業活動	● 当館の魅力発信のため、地元を中心としたメディアとの連携・協力関係を構築し、有用性や話題性の高い情報を発信することで、取り上げていただけるよう働きかけます。 ● 企画展などだけでなく、大人や若者向けの企画、平日利用についてなど、新たな魅力を発信し、新規利用者の獲得にもつなげます。
旅行・おでかけサイト対応	● 旅行サイトやお出かけサイトの基本情報の更新等を行い、口コミを通じた新規来館者の来館につながる情報を発信します。 ● 日本全国の親子向け遊び場やイベント情報を検索できる国内最大級のメディア「いこーよ」のサイトにおいて、当施設が2025年度の「家族でおでかけ人気ランキング」県内1位となるなど、口コミでの好評価を新規来館者の利用促進に活かしていきます。
大型イベントへの出展、関連イベント開催	● 佐賀インターナショナルバルーンフェスティバル、有田陶器市など、県内の集客イベントにおいて、当施設のブースを出展し、認知度を高める取組みを行います。 ● ゾンビランドサガなどのＩＰ関連イベント開催に合わせた関連イベントを開催し、話題性、集客性を高めます。

（２）誘客活動に関する業務計画

地域と連携した戦略的な誘客活動を推進します

県内有数の観光地である武雄・嬉野エリアの観光拠点として、県内外からの誘客を促進します。また、利用者データ分析に基づく効果的な営業活動を行い、団体利用や観光利用の拡大を図ります。

学校団体の利用実績データに基づく月別の利用目標を立て、旅行会社や学校関係者等への訪問活動を実施します。団体ごとの目的やニーズに沿った利用方法を提案するとともに、西九州新幹線の始発駅としての立地、大型バスの無料駐車やレストラン、ショップ、周辺環境など、団体で利用しやすい施設やサービスをアピールします。

① 県内学校団体誘客活動

【利用者数の目標】

項目	目標
学校団体数	[redacted]以上
利用者数	[redacted]以上

【達成のための業務計画】

- 教育事務所及び市町村の教育委員会を訪問し、理科の学習単元に沿った利用方法や、プラネタリウムの学習投映番組の紹介を行います。

② 修学旅行、一般団体誘客活動

【利用者数の目標】

項目	目標
団体数	[redacted]以上
利用者数	[redacted]以上

【達成のための業務計画】

- 九州北部エリアを中心に、旅行代理店担当者との関係性を強化するとともに、西九州新幹線の始発という立地の利点を活かし、沿線駅と連携した誘客を行います。
- 修学旅行については、修学旅行の送客実績のある旅行代理店へヒアリングを実施し、満足度や意見の収集を行い、リピートにつなげます。さらに認知度を高めるため、佐賀県観光課や観光連盟と連携します。来館者の学びを実体験につなげて提供できる環境を積極的に発信し、学びの先にある「生きる力」の育成や、環境への理解を深める学習に役立つことをアピールします。

③ その他の誘客活動

武雄市の観光・まちづくり施策と積極的に連携します。また、武雄市観光協会や、地元観光施設や飲食店、旅館組合等と連携した観光誘客や、県内企業とのパートナーシップ構築による誘客等に取り組みます。

【業務計画】

- 周辺地域関係者の連携による観光振興施策に参画し、当施設への誘客を推進
  例）武雄市観光課及び武雄市観光協会主催の武雄のあかりめぐり（7月～11月）等
- JR九州の西九州新幹線開業記念イベント「GO W EST」への参画及び広報　等
- 近隣の宿泊施設、お土産品店、タクシー会社に対する観覧料の優待割引券の配布依頼
- 周辺の商業施設と連携した相互誘客のしくみづくり
- 県内企業を対象としたスポンサー制度の導入による企業福利厚生としての社員や家族の誘客

（３）今後の利用拡大が期待される層への利用促進策

新たな利用者層の創出とファン化を推進します

当施設では、若者世代、平日利用層、科学館ファン層、インバウンド利用者を今後利用拡大が期待される重点ターゲットとして位置付け、それぞれの特性に応じた利用促進策を展開します。

① 若者の利用・参画による未来のファン育成

当施設はファミリー層や学校団体を中心に利用実績を積み重ねてきましたが、近年はアニメやＳＮＳをきっかけに施設に関心を持つ若年層も増えています。当施設の科学的資源や企画展、地域資源と組み合わせることで、若者が継続的に関わるきっかけを創出し、将来のファン育成にもつなげます。

＜利用促進策＞

- アニメＩＰとの連携による聖地巡礼等の目的地になるコンテンツづくり
- 県内及び近隣県大学生の共創・参画機会創出（ＳＮＳ、動画制作、イベント支援等）

② 大人の学び直しと平日利用の推進

当施設では利用者が夏休みや休日に集中する一方、平日には利用余力があります。そのため、当グループでは県外の利用者が平日に割安になる新たな利用料金を提案し、利用の平準化を目指しています。加えて、平日に大人が落ち着いて学べる機会を提供することで、年間を通じた利用の平準化と閑散期利用の拡大を図ります。

＜利用促進策＞

- 展示やプラネタリウム等を活用し、宇宙、自然、防災、環境等をテーマとした「大人の学び直し講座」の開催
- 武雄温泉・嬉野温泉観光客に対する平日料金の案内+ 平日利用特典の提供

③ 専門性を活かしたファンコミュニティ形成

当施設には研究交流グループの専門性や周辺の豊かな自然環境、プラネタリウムや天文台など、他施設との差別化につながる強みがあります。こうした特色を活かし、科学・天文・自然分野に関心の高い利用者との継続的な関係を構築することで、リピーターや情報発信の担い手となるファン層の拡大と利用者コミュニティづくりを図ります。

＜利用促進策＞

- 生物、自然、天文等の専門性の高い特別教室、フィールド観察会等の開催
- 展示や研究の現場を案内するバックヤードツアーの実施
- 調査研究への利用者の参画

④ 武雄観光と連動したインバウンド誘客

西九州新幹線開業以降、武雄・嬉野エリアではインバウンドを含む広域観光の拡大が進んでいます。当施設は地域を代表する学習・観光施設として、行政や観光関係者と連携しながら、多言語対応や情報発信の充実に取り組み、武雄観光と連動した新たな来館機会の創出を図ります。

＜利用促進策＞

- 武雄市観光課と連携した海外商談会での紹介
- 多言語ガイドアプリ「Ｂ'bom berg Connects」導入施設であることの駅や観光拠点でのＰＲ
- ホタル、星空等の自然を活かした多言語プログラムの実施

3　更なる付加価値、利用者サービス向上のための事業展開

利用者サービスを高める収益還元型の運営モデルを提案します

当グループは、企画展・教室・ショップ等で生み出す体験価値を高め、その価値に応じた適正な受益者負担と事業収入の確保に取り組みます。得られた収益は、展示内容、学習機会、利用者サービスの充実へ再投資し、利用者満足度の向上と経営の安定を両立する持続的な運営モデルを構築します。

①　経営の安定に資するための受益者負担の提案・考え方

企画展や教室・ワークショップは、当館の魅力を高める重要な事業であり、これまでスタッフの創意工夫により満足度の高いコンテンツとして展開してきました。今後は、無料又は材料費相当を基本としてきた一部事業について、内容の充実度や利用者ニーズに応じた適正な受益者負担を導入します。これにより、質の高い体験を継続的に提供するための財源を確保し、企画展・講座・常設体験コンテンツの更なる魅力向上につなげます。実施時期として、[redacted]の実施を想定しています。

【主な取組み】

- 企画展の観覧料の徴収
- ワークショップ、教室、講座の有料化及び価格改定
- 有料の常設体験コンテンツの設置

②　利用料金収入、事業収入をサービスの充実に生かす考え方

[redacted]

4　事業内容

当施設の独自価値をさらに磨き、文化・観光拠点としての魅力を一層高めます

当グループは、当施設の管理運営において、利用者や地域への貢献を念頭に、常に最新の専門性を反映した事業を展開してきました。今後もこれを継続、発展させ、スタッフの専門知識をさらに高め、企画展やプラネタリウム、イベントなどを工夫し、県民の科学・科学技術への理解促進や体験価値の深化への取組みを強化します。さらに、文化・観光拠点としてのプログラムの造成や地域の活性化に尽力し、これまで培ってきた地元自治体・企業・大学等との連携・協力を強化し、地域の特色づくりのために協働します。併せて、科学館情報の発信力を強化し、事業の理解を促すとともに、話題性や共感を得られる運営を目指します。

（１）科学に関する情報提供や普及啓発等の取組み

県の科学学習及び体験の拠点として、県民の科学への興味を触発し、知識と経験を深めることができる情報を提供します。地域の文化観光の拠点として、地域の魅力を知っていただける情報の提供機能を強化します。

a 図書室

文化・観光拠点として地域の魅力発信機能を強化します

図書室を、文化・観光拠点としての観光インフォメーション機能を強化し、地域の魅力を発信します。また、これまで通り、宇宙・科学・自然の分野を中心として、最新の科学の話題や企画展に関連した図書などを通じて科学への興味を触発します。

b ガイダンス室

施設設備を活かし、児童生徒へのガイダンスや講座などを通じて科学情報を提供します

映像音響設備等を効果的に活用し、児童生徒の団体利用時のガイダンスや、県民の生涯学習のための講座や講演会のほか、企画展やイベントの会場として活用します。

c 広報誌

チラシの配布を通じて、当施設の科学学習についての情報を提供します

企画展やイベントのチラシを作成し、県内の小学校の児童全員及び中学校、高校、友の会会員に配布するとともに、県内の図書館等の生涯学習施設、周辺の宿泊施設、交通機関等でも手に取っていただけるよう配架し、当館の情報を発信します。

また、より広範囲の方に届けられるよう、ＷＥＢ媒体を通じた広報情報の発信に注力します。

d インターネット（ＳＮＳ）

公式ウェブサイトとＳＮＳを組み合わせて、日常的に親しみやすい科学情報を提供します

館の公式Ｗｅｂサイトと ＳＮＳ（YouTube、Ｘ（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）、Instagram ）を活用し、利用者にわかりやすく、親しみやすい情報を発信するとともに、科学への関心を高めるコンテンツを充実させます。公式ＷＥＢサイトの情報を計画的かつ継続的に更新するとともに、ＳＮＳ等と連携し、より多くの人々に情報が届くよう発信します。

e その他

メディアと連携し、多くの県民への情報提供に努めます

県民への科学の普及を目的として、[redacted]と連携し、科学情報を発信します。

（２）調査研究や資料の展示等の取組み

① 調査研究の実施計画

県の科学学習及び体験の拠点として、活動の基礎となる調査研究を計画的かつ継続的に行います。研究交流グループのスタッフ全員が各自の活動を充実させるためのテーマを持って調査研究や業務に取り組み、「佐賀県立宇宙科学館調査研究報告書」において、毎年の成果を上梓します。県民の基礎科学に対する理解の促進や地域の自然環境保全など、県民と地域活動に目を向けたテーマを設定し、科学館活動と研究成果を県民や利用者に広く還元していきます。

a 調査研究内容

学術研究だけでなく、県民のニーズに応え、県民に役立つ調査研究等を重視します

（ア）展示・催事・企画展示・プラネタリウム等の展開のための調査

基礎科学や最新の研究に根ざした本物志向の企画展や教室、ワークショップ等によって利用者の満足度を高め、科学への興味関心を触発するために必要な調査を行うとともに、新たな展示技術や手法の研究や開発に取り組みます。また、利用者に実物資料（本物）が持つ資料的情報や魅力を最大限に発揮するため、必要な資料の収集保存と研究に努めます。

（イ）　収蔵品及び収蔵方法に関わる調査研究

県立博物館の常駐職員と共同で標本資料の収集保管・調査研究活動を行い、収蔵資料や収蔵方法についての調査研究を実施します。

（ウ）　当館周辺の生物調査

当館周辺の自然環境変化を把握するため、継続的なモニタリング調査を行います。

[redacted]

b 普及活動計画

調査研究成果を県民に還元し、学術研究の進展にも貢献することを目指します

（ア）調査研究等報告書の発行

調査研究活動の成果は企画展や教室等を通じて還元するほか、毎年度作成する「佐賀県立宇宙科学館調査研究報告書」にまとめ、全国科学博物館協議会の全加盟館、全国科学館連携協議会の全加盟館、県内の全小中高校へ送付します。また、全国科学博物館協議会等への出席、成果発表等を通して発信し、全国の科学館博物館との交流・連携も深めます。

（イ）　スペースパークにおける発信

宇宙に対する子どもたちの関心を高める最新情報についての調査研究成果をもとに、教育や人材育成に資するイベントやワークショップ活動を展開します。天文・宇宙分野への憧れの醸成や魅力的な空間となるような事業を行い、宇宙科学館への回遊促進に繋げます。

（３） 事業運営計画

① 常設展示の運営計画

常設展示、プラネタリウム、天文台を中心とした当施設の常設展示は、幾度かのリニューアルを経て、開館27年目を迎えてなお利用者満足度の高い展示となっています。これらを活かし、誰もが興味を持って楽しめる学びと体験の場となるよう 運営します。

常設展示の3つの展示ゾーンのうち、2015年に地球発見ゾーン、2024年に宇宙発見ゾーンがリニューアルされたことを契機として、自分自身と「佐賀」「地球」「宇宙」との関係の発見・認識を促すというテーマを強く打ち出すため、**「自分自身、そして“生命”のドラマ」**をコンセプトとした展示ストーリーを新たに展開しています。ストーリーに沿って、宇宙創生からの138億年の時間軸に沿って各ゾーンの位置づけや関連性を感じられることをねらいとし、以下の（ア）～（エ）に取り組みます。

（ア）展示アイテムの積極的な展開

展示物を積極的に活用し、これまで以上に利用者満足を高める科学館活動を展開します。子供から大人まで知的好奇心を刺激し、科学の面白さを誰もが体験できる、より効果的な科学館活動を展開します。

2026年6月からは、三菱電機エンジニアリングとの連携のもとで、JAXAの小型月着陸実証機SLIMの着陸などをリアルに再現したVR（仮想現実）を体験できる「MOON DIVE（ムーン・ダイヴ）」を新たに導入し、利用者に最新の科学データに基づいたリアルで没入感ある展示体験を提供しています。このように、新たな話題や技術を取り入れた展示も積極的に展開していきます。

（イ）プラネタリウムの周知及び効果的な活用

プラネタリウム設備及び投映内容についての情報を積極的に発信します。スタッフによる生解説を重視し、宇宙・天文分野において注目されている話題を積極的に取り上げて発信し、県民の科学への興味を喚起します。

天文・宇宙に関するコンテンツを投映するだけでなく、企画展のテーマとタイアップした科学的な全天周映像の上映の他、講演会やパブリックビューイングなどのイベントにも広く活用します。

（ウ）安全・安心・快適な空間づくり

利用者の安全を守り、安心して利用していただけるように、保守点検及びメンテナンスを十分に行い、展示設備の維持管理に努めます。また、感染症等のリスクに配慮するとともに、状況に即した適切な運営を行います。

（エ）コミュニケーションによる体験価値の向上

展示アイテムを効果的に活用し、利用者の興味を喚起し、展示ストーリーへの理解を深め、展示体験価値の向上を図るため、利用者とスタッフとの対話・交流をいっそう大切にし、ガイドツアーやギャラリートークを行います。館のスタッフによる知の臨場感あふれる展示解説やアイテムの説明で利用者の科学への興味は大幅に向上します。展示物の成り立ちや仕組みを熟知したスタッフの工夫で、展示資源をより有効に活用します。

コミュニケーション・プログラム	内容
ギャラリートーク	地球発見ゾーン、佐賀発見ゾーン、宇宙発見ゾーンの展示アイテムを活かしてスタッフが解説（団体の希望に応じて随時実施）
ガイドツアー	館内を巡回しながら展示アイテムを、アテンダントが楽しく紹介（事前予約制）

a 宇宙発見ゾーン

宇宙の科学的探究と人類の宇宙への歩みを、「宇宙と生命」のドラマとして物語ります

令和６（2024）年3月23日に全面リニューアルオープンを迎えました。「宇宙へのはるかなる旅～宇宙と人類の壮大なドラマ～」をコンセプトに、新しい展示手法も取り入れて利用者に天文・宇宙に関する情報を発信し、天文・宇宙を体感し、遊び、学べる展示を提供するため、以下の（ア）～（ウ）を行います。

（ア）メンテナンスとスタッフのサポートの徹底

グラヴィティ・ジャンプなどの大型体験装置は、利用者の安全確保を第一優先に、装置の日常的な点検と定期的なメンテナンスを行い、不具合の早期発見と早期対策を基本に安全管理の徹底を図ります。体験者の安全対策を施すスタッフを常時配置し、スタッフへの安全教育も実施します。



（イ）利用者との双方向のコミュニケーション

積極的に利用者とコミュニケーションを図り、展示解説や時事の宇宙・天文情報の周知等の活動を行います。

コミュニケーション・プログラム	内容
Ｑ＆Ａみんなのギモンコーナー	利用者が質問票に記入し、宇宙ポストへ投函したものに対し、スタッフが回答を記入して掲示（不定期更新）





（ウ）天文・宇宙に関する最新トピックスの発信

利用者へ話題の宇宙天文情報の提供の場としてＪＡＸＡコーナーや天文情報掲示板を設置し、天文現象や宇宙・天文に関する研究の情報・トピックスをタイムリーに発信します。また、ＷＳやプラネタリウムの投映等での情報発信や利用者以外に対しても、ＳＮＳなどを活用し、宇宙・天文の情報を提供します。



b 地球発見ゾーン

地球の物理的な特性をテーマにしたアイテムでの体験を、地球と私たちのつながりの理解に結び付けます

体験型展示を中心とした汎用性の高い展示物やICTを活用した展示物を通して、活気ある楽しい体験の場をつくります。多様な生命を育む地球の物理的・化学的な特性を学べる展示を活かし、地球と物質、生命の関わりへの理解を深める解説を目指し、以下の（ア）、（イ）を実施します。

（ア）メンテナンスとスタッフのサポートの徹底

スペースサイクリング等の大型体験装置は、利用者の安全確保を第一優先に、装置の日常的な点検と定期的なメンテナンスを行い、不具合の早期発見と早期対策を基本に安全管理の徹底を図ります。体験者の安全対策を施すスタッフを常時配置し、スタッフへの安全教育も実施します。また、有料の体験展示「ＭＯＯＮ ＤＩＶＥ」を円滑に体験していただけるよう、案内、サポートを行います。



（イ）ワークショップと一体となった魅力ある体験展示の提供や汎用型展示の活用

ワークショップと連動した展示空間の魅力を活かし、利用者が日常的に科学体験ができるようなプログラムを提供します。（ 実施計画については③企画展等の運営計画（イ）ワークショップ に記載します ）



c 佐賀発見ゾーン

38億年の壮大な生命のドラマ、多様性に富む佐賀の自然と生き物のドラマを物語ります

約38億年前における生命誕生から現在に至るまでの地球と生命の歴史を、鉱物や岩石、化石を用いて紹介することで地球科学や古生物に対する興味を喚起します。また、現在の佐賀の自然環境や生物相の特徴を標本や生体を用いて紹介することで、私たちの生活の基盤となる生物多様性への理解を促進します。

（ア）　「展示の時間軸が理解できる解説」のための取組み

現状、佐賀発見ゾーンは地球発見ゾーンからは過去から現在へ、佐賀発見プラザ側からは現在から過去へのおよその時間軸で構成されています。これらに対する理解を促進するため、「太古の地球」「太古の佐賀」「佐賀の自然環境」の3つのカテゴリーを設けて、それぞれを活かした解説や展示を行います。

（イ）　里山のジオラマを活用した地域固有の自然環境保全の啓発

長い時間をかけて人々が自然と共生しながらつくりあげてきた自然環境である里山は、現在、急速に衰退し、そこに生息する生き物の多くが絶滅の危機に瀕しています。そこで、当ゾーンの里山ジオラマを活用し、標本や映像の展示を加えて、里山の自然の大切さを伝える展示を行います。

（ウ）　トピック展示による県内の自然環境や生態系の現状の発信

季節や時事、科学館スタッフの専門に応じたテーマを設定し，トピック展示を行います。常設展示だけでは伝えることが難しい自然環境や生態系の現状を伝える展示を行うとともに、収蔵資料を利用者に供覧する機会を設けます。



（エ）　展示リニューアルに向けた資料収集及びコンセプトや展示内容の検討

2015年の地球発見ゾーン、2024年の宇宙発見ゾーンに続き、佐賀発見ゾーンの展示についても、時代変化に応じたリニューアルが必要であると考えます。研究交流グループの専門知識を有するスタッフの知見及び展示や解説の実践経験を活かして、将来的な展示の在り方や必要な展示コンテンツの整備について、中長期を見据えた検討を行います。

d サイエンスサロン

佐賀の科学技術のポテンシャルを発信し、次世代の創造力を育むコーナーとして運営します

「佐賀フロンティア」をテーマとし、日本屈指の科学技術力を誇った佐賀藩の顕著な取組みに始まる佐賀の科学技術史を紹介するとともに、県内の大学や企業と連携し、最新技術や研究成果を発信します。テーブルや椅子を配置し、利用者が憩いの場所として活用しながら、佐賀の科学技術のポテンシャルを実感できるコーナーとして運営します。

e こどもの広場

親子で一緒に過ごせる利用しやすい空間としての利便性を高めます

こどもの広場は手前と奥に分かれており、奥の授乳・おむつ替えエリアは活用されていますが、手前のエリアには遊べる機能がなく、そのため、未就学児とともに休憩や滞在ができる場所にはなっていません。また、授乳・おむつ替えの機能についても利用者からの改善の要望をいただいています。



乳幼児を連れたファミリー層は当施設の主要利用者層であり、より安心して滞在していただける施設とするため、こどもの広場の機能の改善を図ります。

[redacted]

fプラネタリウム

当施設の機器や設備の特色を活かし、他では体験できない独自性の高い投映を行います

当施設のプラネタリウムでは、2023年に光学式投映機の大規模分解整備及びデジタル投映機のシステム更新が行われました。これらの機能とシステムを最大限に活かした運営を行います。

（ア）投映計画

実際の星空を限りなく再現した光学式投映機と最新のデジタル投映機メディアグローブΣSE及び従来のダイナビジョン４Ｋを活用し、地上からの星空だけでなく、時間・空間を超えた星空の疑似体験を提供します。

また、スタッフによる生解説を重視し、個性を活かした投映を行い、魅力的で有意義な時間を提供します。

利用者の多様な目的、ニーズ、年齢層等に応じて、投映内容、投映時間等の異なる番組を投映します。また、音声が聞こえにくい人などに楽しんでいただけるよう、字幕付きの星空解説も実施します。

【投映プログラム】

利用者の年齢や目的、来館動機に応じた多様な投映プログラムを提供。誰もが宇宙や星空に親しみ、学びを深められる機会を創出します。

投映計画	実施頻度	内容
一般番組投映	平日　1日４回 土曜日　1日５回 日曜日・祝日　1日５回	映像番組単独又は、映像番組とスタッフの星空解説の組み合わせによる投映プログラム。投映時間は状況に則して対応
学習番組投映	平日の団体予約時に投映	星空解説と理科の学習単元に合わせた番組の投映プログラム
キッズアワー	多客日の 土曜日、日曜日、祝日に 1回程度	小さな子ども連れの方も気軽に楽しめるよう、幼児向けの番組のみの約30分間の投映プログラム
サタデーナイト プラネタリウム 「も～っと星空散歩」	毎週土曜日 18:00～18:40	普段の解説では物足りないという方、生解説を楽しみたいという方に向けて、今夜の星空解説に月ごとや季節ごとの話題や時事の宇宙・天文の話題を紹介するなどの解説をプラスしたプログラム
字幕付きプラネタリウム 「今夜の星空散歩」	春・夏・秋・冬　各2回、年8回 （土・日のいずれか）	より多くの方にプラネタリウムを楽しんでいただけるよう、当施設オペレーターによる音声の星空解説に字幕を付けたプラネタリウム投映プログラム
はじめてのプラネタリウム	団体予約のない水曜日の 1回目の投映回	より小さな子ども連れの方が気がねなく楽しめるよう、途中退場しても再入場可能な投映プログラム。キッズアワーと同じ幼児向け番組を投映
リラックスプラネタリウム	1月、2月、5月、6月、9月、10月、11月、12月の最終金曜日最終投映回（予定）	日の入りから翌日の夜明けまでの星空の投映と音楽のみの30分間（解説なし、時々流れ星あり）のプログラム。忙しい大人に癒しの時間を提供する

（イ）プラネタリウム機器の維持管理及び保守点検

投映中止による観覧者への影響を最小限に抑えるため、日常点検、定期点検を行うとともに、不具合発生時の緊急対応を速やかに実施します。

【保守・点検内容】

- 日常点検：毎日実施。スタッフによる動作確認を行い、不具合等の未然及び早期の発見に努めます。
- 総合点検：年１回（９月に３日間）。プラネタリウム納入メーカーによる総合点検を行います。
- 音響点検：２年に１回程度、音場測定を実施し、音響の質の維持に努めます。
- 作動点検：年１回（１月末～２月上旬に２日間）実施します。
- デジタル機器点検：年１回（６月下旬～７月上旬に１日）実施します。
- 周辺機器更新：映像音響機器や制御PC等の耐用年数に合わせた更新計画を立てて実施します。

g 天文台

恵まれた立地環境や機器を最大限に活かし、誰もが参加しやすい開かれた運営を行います

天体観望に適した立地環境と設備を有効活用するため、天体観望運営に精通したスタッフを配置し、毎日のワークショップや、毎週末の観望会を晴天時に実施します。

開館中の晴天時には太陽の記録撮影を必ず実施し、ＮＤ、Ｈα、ＣａＫの異なる波長で太陽を観察、黒点やプロミネンスなどの日々の変化を記録します。惑星・月などの記録撮影や、天文現象がある際の記録撮影を行い、資料として蓄積するとともに、展示やプラネタリウムの投映に活用します。

（ア）設備・機器の保守点検・メンテナンス

天文台の設備や望遠鏡等の機器を良好な状態に保つため、スタッフによる日常の動作確認の他、専門の協力社による保守点検作業を計画的に実施します。また、点検により発見された不具合は修繕し、予算措置の必要なものは計画を立てて実施します。不具合発生時の緊急対応についても速やかに実施します。経年劣化による動作不良には随時対応します。

保守点検の実施内容
✓ ドーム及びスライディングルーフの動作確認
✓ 各望遠鏡の清掃メンテナンス、追尾テスト
✓ 20cm屈折望遠鏡・35cm反射望遠鏡のハルトマンテスト
✓ 各種機器の更新（カメラ、PC等）等

（イ）　天文ファンのためのサービス

[redacted]に所属する全国の有志施設（2026年8月時点で約40館）と連携した取組みとして、天文台巡りを楽しむ人のために、当施設オリジナルの「天文台カード」を作成し、天文台で実施する天体観望ワークショップや天体観望会、教室等の参加者のうち、希望者に１人１枚配布します。

「ゾンビランドサガ」劇場版のファンにも対応し、雨天や曇天の際にも公開しています。



佐賀県立宇宙科学館天文台カード

② 企画展示等の運営計画

（ア）企画展

企画展を年２回、春、夏の集客シーズンに開催します。これまで、スタッフの自主企画により、利用者、県民の関心を高め、期待に応える企画展の開催をしてきました。今後も、恐竜、生物などの夏休み企画展や、利用者に愛され、春の企画展として2010年から開催してきた「ビーコロ」展を開催します。

令和９年度の計画（案）

時期	内容案
[redacted]	

次期指定期間に実施を予定する企画展テーマ

テーマ案	内容案
[redacted]	

（イ）　毎日又は週末等に実施するメニュー

利用者が展示室や天文台で、スタッフとの対話・交流を通じて実験、工作、観察などを体験できるワークショップを実施します。

天文台を活用した天体観望及び、展示水槽での餌やり体験を毎日実施します。

地球発見ゾーンでの工作、実験のワークショップは、展示室の混雑する繁忙日を避け、閑散期にのみ実施することで、閑散期の集客につなげます。

また、展示水槽のバックヤードツアーを、夏休み期間の平日の特別体験として実施し、利用の分散化と混雑緩和につなげます。

【実施内容】

展示・観察・実験・工作を組み合わせた体験型プログラムを日常的に展開し、来館するたびに新たな発見と学びに出会える環境をつくります。

	種類	場所／実施回数など	概要
地球発見ゾーン	**実験ワークショップ** 	場所：ケミカルラボ 閑散期の土日に実施	手に入りやすい身近なものを使って、家でもできる化学実験を行います。 石鹸、スライム、ろうそくなどを短時間でつくり、様々な化学反応の面白さを体験します。
	工作ワークショップ 	場所：ものづくり工房 閑散期の土日に実施	おもしろい物理現象が起こるおもちゃをつくり、遊んだり試したり、工夫したりしながら、原理や仕組みを体感します。
佐賀発見ゾーン	**エサやり体験** 	場所：ジオラマ水槽 毎日実施 1日2回（午前、午後）	魚へのエサやりを通じて生命の源「食」を観察することで「生命」を実感します。あわせて、スタッフが実施する魚への給餌解説を聞くことで魚の生態や生息域環境などを学びます。
	バックヤードツアー 	場所：佐賀発見ゾーン バックヤード 通常期間：週末に実施 多客期間：平日に実施	利用者が普段見ることができない展示水槽の裏側や、生物・地学の展示を行うスタッフの展示に至るまでの裏側での活動や研究中の取組みの様子などを紹介します。
天文台	**青空天文台** 	場所：天文台 回数：平日　１日３回 日祝　１日３回 ＊土日祝日が雨天・曇天になった場合は、天文台を公開し、望遠鏡の説明やハンドコントローラーによる操作体験などを実施します	「太陽観察」 午前と午後に各1回実施します。 波長の違うフィルタを搭載した望遠鏡にカメラを取り付け、その時の太陽の様子を観察します。遮光板を使った観察も行います。
			「昼間の星を見よう」 午後1回（夕方）に実施します。 青空にかがやく一等星や惑星、月などを望遠鏡をのぞいて観望します。

	種類	場所／実施回数など	概要
わくわく広場	**ゆめぎんが実験ショー** 	実施日：10、11、12月の土日祝	● 閑散期（10月～12月）の週末に、1階のわくわく広場で「ゆめぎんが実験ショー」と称する科学実験ショーのステージや、クリスマスなどの季節を楽しむ工作ワークショップなど、その場で自由に参加して科学を体験できるイベントを実施します。
	大型コロコロ装置実演 	実施日：「ビーコロ」展開催期間毎日（3月下旬～5月初旬）	● 「ビーコロ」展開催期間のイベントとして、大型の装置を設置し、実験ショーを行います。
プラネタリウム・天文台	**サタデーナイトプラネタリウム** 	場所：プラネタリウム 実施日：毎週土曜日 18時～ ※イベント開催で中止の場合あり	● 当夜の星空をスタッフの生解説で投映し、季節の星座や見ごろの天体、そのときどきの天文現象や宇宙の話題を提供します。 ● 当日の天体観望会で観望する予定の天体もあわせて紹介し、そのあとに開催する天体観望会への参加を促します。
	天体観望会 	場所：観望デッキ 天文台 実施日：毎週土曜日 ※雨天・曇天時は中止	● 天文ボランティアの協力を得て、夜間に実施します。 ● 天体観望会のホームページで自宅で観望できる天体を「ジェミニニュース」（印刷物・月1回発行）や「今月の星空案内」（公式W EBサイト）、「おうちで星空散歩」（公式YouTubeチャンネル）で発信します。

③ 資料の収集調査の計画

所蔵する標本コレクションの価値を高め、展示や環境教育の資源としての充実を図ります

研究収蔵資料を基に、より特色のある質の高い資料を収集するため、また、展示や教室、ワークショップ等で公開・活用するための調査・研究を県立博物館職員と協力して行います。

④ 資料の保存及び修理の計画

業務フローに沿って資料の適切な保存・活用を行います

当施設に保管されている約63,000点の生物標本と約7,100点の地学標本について、県立博物館の常駐職員と共同で資料の破損や消失を防除すると共に、必要に応じて適切な修復を行います。

- 適切な温度と湿度の設定及び管理
- 文化財害虫の定期調査（毎月）
- 防虫剤の定期交換（年2回）
- 収蔵庫の燻蒸作業の実施（年1回）
- 専門家への相談による環境改善への取組み
- 資料の特性に合った適切な修復の実施

⑤ 教育・生涯学習支援の計画

学校や地域内外の人々とともに、科学学習のすそ野を広げるイベントや教室を開催します

年間を通じ、学校や日常の中ではできない体験を通じて、子どもたちの「科学する心」を触発する多様な学び・交流の機会をつくるとともに、県民の科学リテラシーを高める拠点として、生涯学習や学校教育を支援します。

（ア）学校団体の理科学習や人材育成の支援

科学への好奇心や科学的思考を育む学習プログラムを開発し、教室等を開催するともに科学館のプログラムを活かして、県民の生涯学習活動や学校教育を支援することを目的とした対外活動を行います。

【実施内容】

展示・観察・実験・工作を組み合わせた体験型プログラムを日常的に展開し、来館するたびに新たな発見と学びに出会える環境をつくります

プログラム	内容
館内プログラム	学校団体の来館時に、事前の予約により、ワークショップやサイエンスショーを実施します。学習投映や、学校ではできない実験などのプログラムを充実させ、団体利用を促進します
出張プログラム	宇宙科学館の活動範囲を広げて地域へ科学教育活動を推進するため、館内活動と調整を行いながら、学校等への出張教室を実施します
実験機材の貸出し	当施設のリソースを多角的に有効活用するため、利用や指導方法の研修と合わせて実験機材等の機材の貸し出しを行います
学校教職員の支援	「学校支援窓口」を設置して学校との連携を強化し、授業での利用を促進します。また、学校教員及び地域団体の指導員等を対象に実験や観察方法に関する研修会を開催します
その他	学芸員実習：大学からの要請に応じ、学芸員資格取得に必要な実習を受け入れます 教職員派遣研修：教職員の社会体験研修の場を提供し、活動を支援します 職場体験：中学校、高校の職場体験を受入れ、学芸員の仕事体験プログラムを提供します



館内プログラム

（イ）　ゆめぎんがサイエンス教室の開催

「ゆめぎんがサイエンス教室」は、理科離れが叫ばれる中で、子どもたちのものづくりや実験、観察などの体験機会を創出することを目的とした教室です。科学への好奇心や科学的思考を育む学習プログラムを開発し、利用者参加型の教室やワークショップとして開催します。特に、家族で参加し、楽しめるプログラムを充実させます。

【実施内容】

子どもから大人までが実験・工作・観察・ものづくりを通じて科学に親しみ、自ら学ぶ意欲を育む機会を創出します。

プログラム	時期・頻度	内容
レンズ磨き教室	年12回程度	レンズ研磨機を使い、自分でレンズを磨くところからガリレオ式望遠鏡をつくり上げる、当施設でしかできない体験です。小学生以上の親子を対象とします。 はるか彼方の星空や目に見えないほど小さな世界を知りたいという科学者の探求心を満たすために、科学及び科学技術の発展に大きく貢献してきた「レンズ」を自作する経験を通じ、自分で何かを作ることの面白さを体感し、何かに挑戦してみようという気持ちを触発することを目的とします。
ものこわし教室	年1回程度	ボタン一つでいろいろなことが実現してしまう便利な世の中になったことが、ものの仕組みへの関心を削いでしまっています。これらの便利なものがどのような仕組みで動いているのか、子どもたちに構造や中身に興味を持ってもらいたいとの考えのもと、「コンパクトカメラ」等の機械の分解を体験できる場をつくります。小学生以上の親子を対象とし、家族の共同作業も楽しめる教室とします。
野外観察会	年4回程度	生物の採集や飼育、顕微鏡での観察などの方法を実践的に学ぶ教室を開催します。子どもから大人まで、自然観察への関心が高い人々の学習を支援します。
ネイチャーアカデミー	年6回程度	身近な生き物をテーマに、専門家を招待してプレミアムレクチャーを実施します。
ゆめぎんが工作道場	夏休み期間 毎日	2011年にスタートし、多くの子どもたちに親しまれてきた「自由研究道場」の名称を変更し、より親しみやすく気軽に参加できるイベントとしてリニューアルします。 利用者は、数種類の工作キットの中から好きなものを購入し、ものづくりにチャレンジできます。身近な材料で“つくる楽しさ” に出合い、家に帰ってからも工夫や改良、発展させたい気持ちを触発することを目指します。
プログラミング教室	年3回程度	子どもたちがITリテラシーを身に付けることを目的とし、プログラミングアプリを利用して簡単なゲームなどのプログラムをつくるプロセスを体験する教室を新たに実施します。


レンズ磨き教室（研磨機）


野外観察会


ゆめぎんが工作道場

（４）県内のCSOや他施設との連携計画について

県内外の人々にはたらきかけて参画・協働を進めることで、科学学習拠点としての機能を拡充するとともに、環境保全やまちづくりにも取り組んできました。今後はさらに、文化・観光拠点として連携・協働の環を拡げ、人づくりと地域力の向上に貢献することを目指します。

① 県民・地域との協働による地域に開かれた学びの場づくり

（ア）事業へのボランティアの参画促進

地域に開かれた科学館として多くの県民・市民に参画していただき、それぞれが有する経験・技能・知識を活かすことで、宇宙科学館を多面的、多角的に活用し、より一層地域に貢献できる科学館づくりを推進します。

- 個々の技能や経験、専門知識を活かした展示、企画展、イベント等への参画
- 調査研究活動に関する助言及び補助
- 展示解説やガイドツアーへの参画

（イ）　天文ボランティアとの連携による天文普及の裾野の拡張

天文分野の普及事業実施にあたり、佐賀県内及び近隣県の天文愛好家や天文クラブ、天文イベント実行団体等の参加、協力をいただき、天文を楽しむ裾野を広げます。

プログラム	内容
毎週土曜日夜の観望会	地域の天文愛好家の方に参加していただき、利用者への指導や解説を通じて相互に学びを深める機会をつくります。
天文祭 **～ Star Festival ～**	天文ファンの裾野を広げ、観望会等の館内活動の周知にもつながる活動として、2009年から年1回実施している地元の天文ファンと利用者をつなぐ交流イベントを継続します。佐賀県内及び近隣県の天文愛好家や天文クラブ、天文イベント実行団体等の参加、協力をいただき、望遠鏡体験、天文工作、観望会等のイベントを開催します。年々参加者を増やしており、300人以上の参加を見込みます。



天文祭

（ウ）地域関係者との連携によるイベント開催

当施設の施設や機能をより多面的に活用し、多くの方に利用・参加していただくために、地域の様々な主体に参画していただき、事業を実施します。

プログラム	内容
ほたる祭り [redacted]	地域活性化、地域振興を目的として活動している[redacted]の事務局として、行事やイベントづくりに積極的に参画します。５月末から６月初旬の「ほたる祭り」期間には特別イベントを開催するとともに、芝生広場にこいのぼりを設営するなど、話題作りや地域への誘客に協力して取り組みます。
七夕茶会 [redacted]	[redacted]の協力のもと、プラネタリウムでの星空解説と、野外で星を見ながらの本格的なお茶会を楽しむイベントを開催します。
武雄のあかりめぐり [redacted]	武雄市内の観光名所等をあかりで彩り、周遊観光を促進する[redacted]主催の「武雄のあかりめぐり」等に協力し、観光による地域活性化に貢献することを目指します。



七夕茶会

② 大学との連携による宇宙教育と次世代人材育成

[redacted]と、佐賀県が取り組む宇宙教育の推進や人材育成、研究紹介などの分野で連携します。

今後も、子どもたちを対象とした「JAXAGA SCHOOL」などの宇宙教育事業の展開や、当施設の企画展やセミナー等実施における大学教員の企画協力や講師招聘など、多面的な連携・協力関係を継続します。

③ 県内産業関係者と連携し、地域産業と科学学習をつなぎ、人づくりに貢献

県内企業にはたらきかけ、地域の科学技術の発信や次世代人材育成における連携・協力を進めます。企画展のテーマに合わせた県内企業の技術や製品の紹介や、教室の共催などにおける連携や、企業が主体となった科学教育や人材育成の場としての当施設の活用をはたらきかけていきます。

また、[redacted]に協力して有明海の自然環境とノリ養殖の関わりなどについて学ぶ授業を展開するなど、今後も佐賀の自然と深く結びついた地域産業の関係者と連携した科学学習、地域学習を推進し、人づくり、地域づくりに貢献することを目指します。

④ 地域の自然環境保全・調査活動との連携による生物多様性保全と環境教育の推進

当施設では、県内の自然共生サイトや研究機関、環境保全団体、社会教育施設等と連携し、生物多様性保全や自然環境調査、環境教育活動を推進します。地域とともに蓄積した自然史資料や調査成果を展示、イベント、教育普及事業へ還元することで、県民の環境意識向上とネイチャーポジティブな地域づくりに貢献します。

取組み	内容
自然共生サイトとの連携による自然史資料の蓄積と活用	県内の自然共生サイトにおける生物モニタリングや現地調査を支援し、地域の自然環境に関する基礎資料を蓄積します。[redacted]をはじめ、関係団体と連携協定を締結し、調査成果を展示や教育プログラムへ活用することで、県民の生物多様性への理解促進を図ります。 自然共生サイトとは、民間などの取組みによって生物多様性の保全が図られている区域を認定する制度に基づき、国に認定された場所のことです。国際目標「30by30」の達成に向けた日本独自の重要な仕組みとして位置づけられています。
希少生物の保全活動への参画	[redacted]や県立博物館職員等と連携し、タガメをはじめとする希少水生生物の保全活動に取り組みます。調査や保全の現場と科学館活動を結び付けることで、地域固有の自然環境の価値を伝えるとともに、次世代の環境保全人材の育成につなげます。
地域資源を活かした環境保全と観光の両立	[redacted]をはじめとする地域関係者と連携し、ホタルなど地域の自然資源の保全と活用を支援します。自然観察会や情報発信を通じて、環境保全と地域観光の両立に寄与し、自然の価値を地域全体で共有する仕組みづくりを進めます。
地球規模課題を学ぶ環境教育ネットワークの構築	[redacted]などと連携し、海洋プラスチック問題や気候変動、生物多様性保全などの環境課題を学ぶ機会を創出します。地域の活動と地球規模課題を結び付けた展示や講座を展開し、科学的理解と行動変容を促進します。



[redacted]のホタル上陸観察会

（５）文化・観光拠点としての取組み

当グループは、地域のミュージアムには、文化振興と観光振興の両面から地域活性化に貢献する役割が求められていると考えています。このような考え方のもとで、当施設において、地域資源や観光施策と連携した事業展開により、施設の魅力向上と交流人口の創出に取り組んできました。近年はコンテンツツーリズムの活用にも積極的に取り組み、県内外からの誘客につなげています。今後はさらに、県の文化・観光施策と歩調を合わせながら、多様な主体との連携によって文化・観光拠点としての機能を一層高めるため、以下のような事業を実施します。

① アニメなどのIPや県施策と連携した新たな交流人口の創出

当グループは、当施設の事業において、県内有数の観光資源や文化コンテンツとの連携を積極的に推進し、科学館を起点とした交流人口の拡大と地域周遊の促進に取り組んできました。



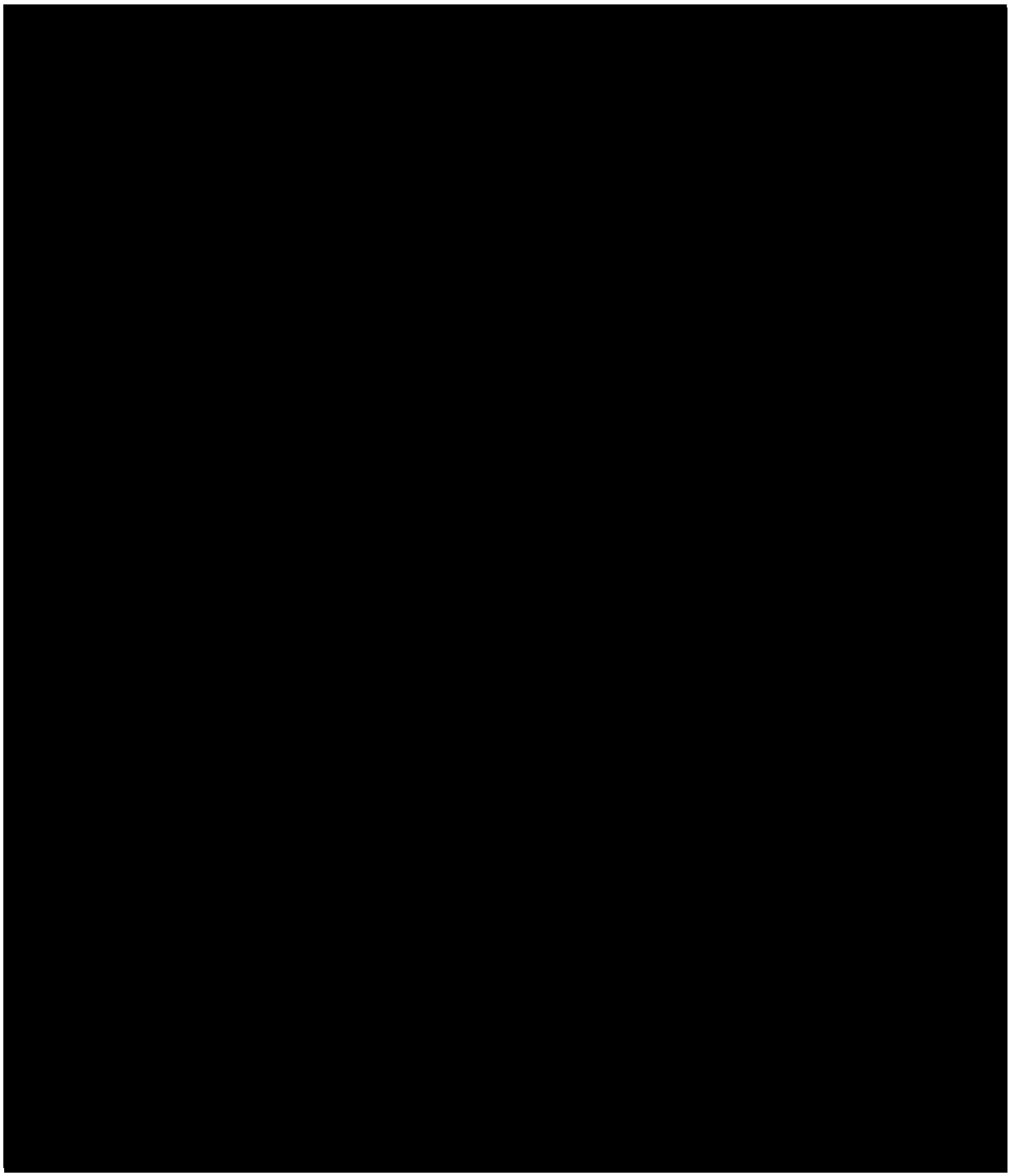
次期運営期間においても、県の観光施策や地域イベントと連携しながら、アニメ、ゲーム、映像作品などの外部IPとの協働を積極的に推進します。話題性の高いコンテンツを活用した情報発信や企画展開により、県外からの来訪促進、若年層との接点拡大、観光周遊の活性化を図るとともに、「科学を学ぶ場」から「佐賀の魅力を発信する文化・観光拠点」へと機能を発展させ、交流人口の拡大と地域活性化に貢献します。コンテンツツーリズムを活用し、県外からの誘客促進と交流人口の拡大を図るとともに、地域周遊と消費拡大にも貢献します。

② 企画展やプラネタリウムとショップ・飲食の連携による観光誘客力の強化

当グループはこれまでも、春、夏の特別展や企画展、プラネタリウム番組を通じて県内外からの利用者を呼び込み、新たな顧客層の開拓に取り組んできました。今後は、企画展やプラネタリウムの番組と、ミュージアムショップでの物販や飲食機能と連動させた企画を展開し、「見る」「学ぶ」に加え、「買う」「味わう」までを一体的に楽しめる体験を提供します。

当施設のオリジナルキャラクター「ゆめぎんが★ウーたん」や、外部のIPコンテンツ、地域資源を活用した限定商品の販売や、企画展と連動したメニュー開発、周遊キャンペーン等を実施することで、来館動機の創出と滞在時間の延伸を図り、観光目的地としての魅力を高めます。さらに、企画展利用者をリピーターや地域周遊へとつなげる仕組みを構築し、交流人口の拡大に貢献することを目指します。

企画展・プラネタリウムと飲食・物販・回遊促進策連携イメージ



5　SPACE PARK（スペースパーク）の管理・運営計画

宇宙科学館の普及・広報活動の拠点として効果的な運営を行います

九州佐賀国際空港に設置されたSPACE PARK（スペースパーク）は、子ども連れの家族などが楽しみながら休憩もできる居心地の良い空間です。当該スペースを当施設の広報拠点の一つとして運営し、宇宙をテーマに、宇宙や科学への関心を高める契機になり、かつ、子どもたちの夢や志を育むスペースとして活用していくことを目指します。

宇宙や佐賀に関する展示や教育普及のノウハウを活かし、県民、帰省客、観光客、ビジネスマンなどの空港利用者が気軽に立ち寄り、宇宙と佐賀への関心を高めることのできる場づくりを通じ、宇宙技術による地方創生に資する運営を行います。

①　管理・保全の実施体制

- 九州佐賀国際空港ビル株式会社との契約に基づき、日常的な展示の現状確認、物品の安全管理、衛生管理、その他管理保全に関する点検、清掃等については、空港を管理する佐賀ターミナルビル株式会社に再委託を行います。
- 情報更新やダイナミックな映像番組、什器類の更新に努めます。
- 県やJAXAの配布物及び、当施設のリーフレット・類の配架・補充も適時行います。

②　イベントの実施及び宇宙科学館への回遊促進策

宇宙科学館への回遊を促進するため、当該スペースで宇宙に関するイベントやワークショップを行います。また、小型月着陸実証機SLIMの月面着陸を再現したVR（MOON DIVE）を体験するイベント等を開催し、参加者に天文科学への興味を掻き立て、科学館事業へのＰＲの場としても活用します。

③　展示更新

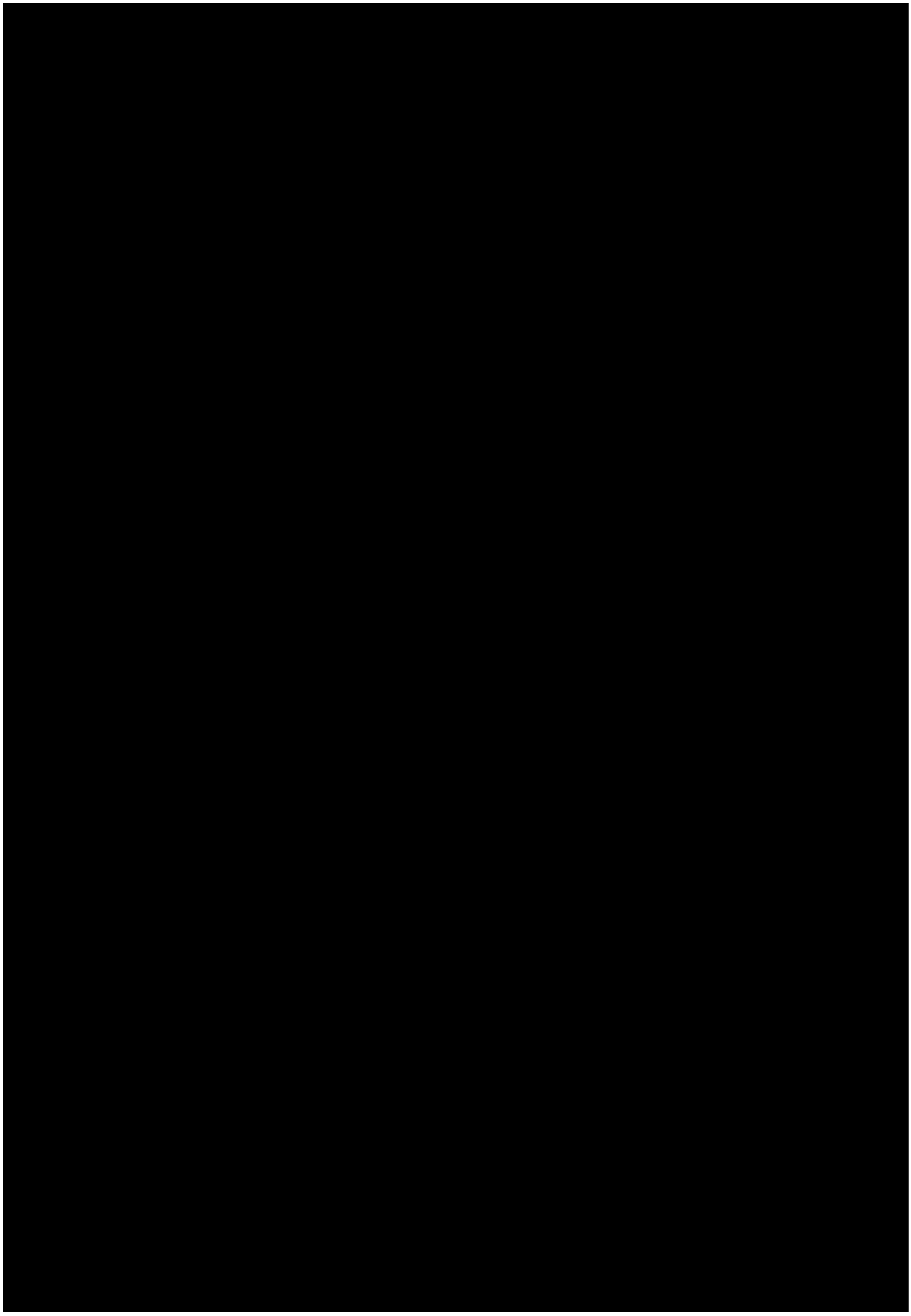
展示内容が古くならないよう、発信情報を適時更新します。JAXAの宇宙技術や宇宙開発の進展状況に応じ、更新の必要な内容を検討して計画を立案し、県と協議の上で実施します。

（以下、余白）

6　提案型事業

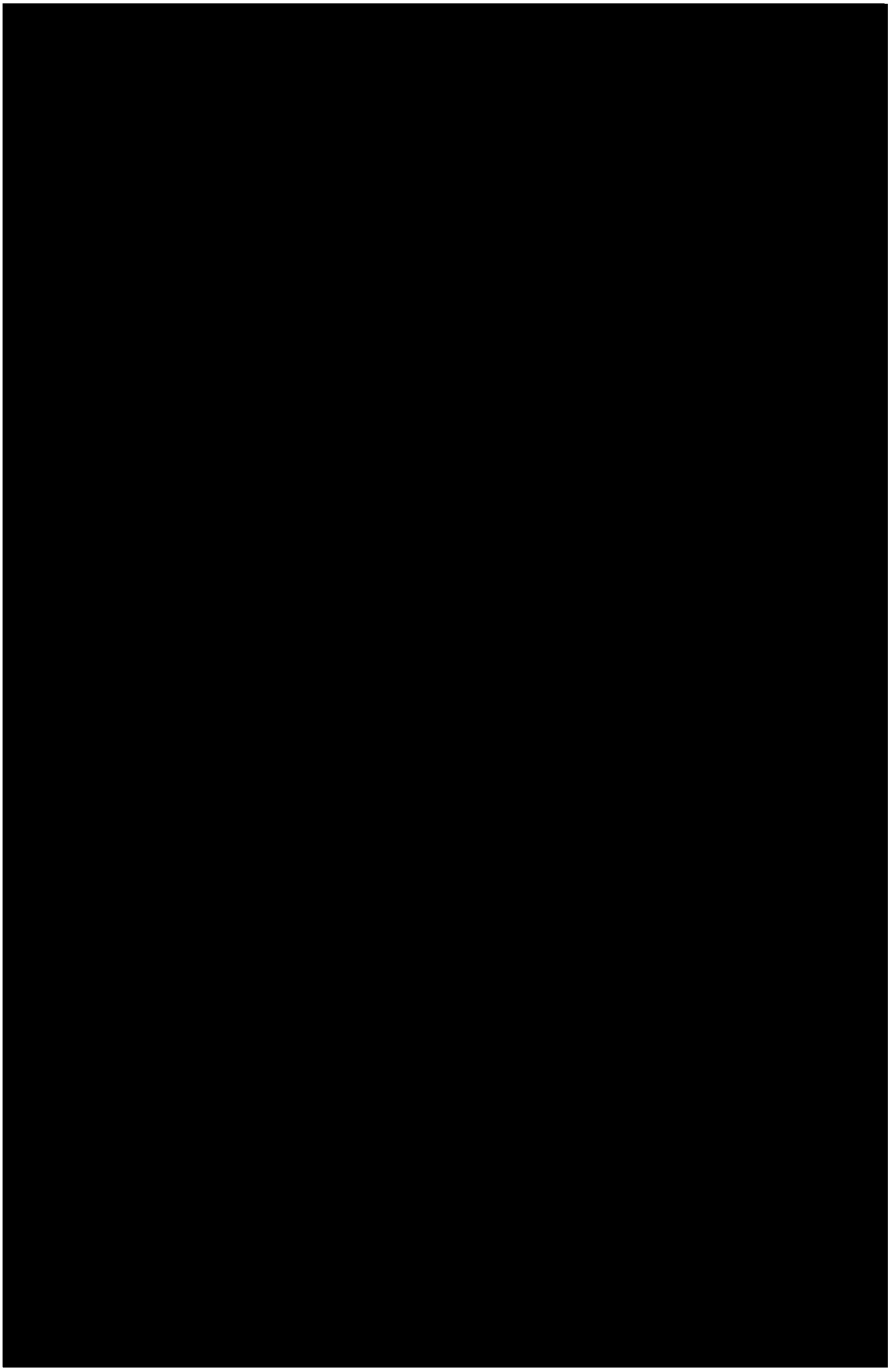
ショップ・レストラン・ユニークベニューで、魅力向上と収益創出を実現します

（１）　ミュージアムショップの管理運営計画

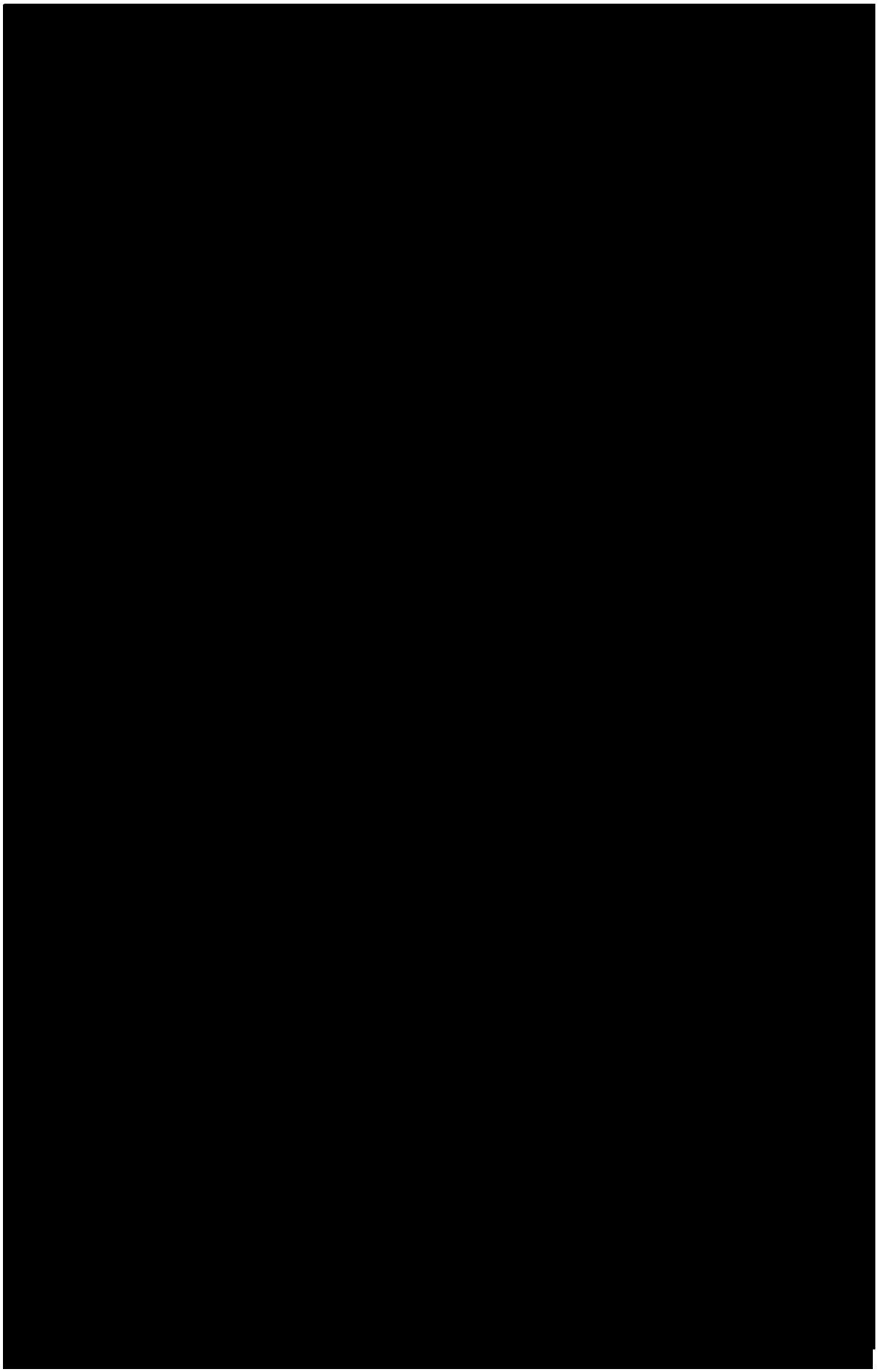


3　施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項

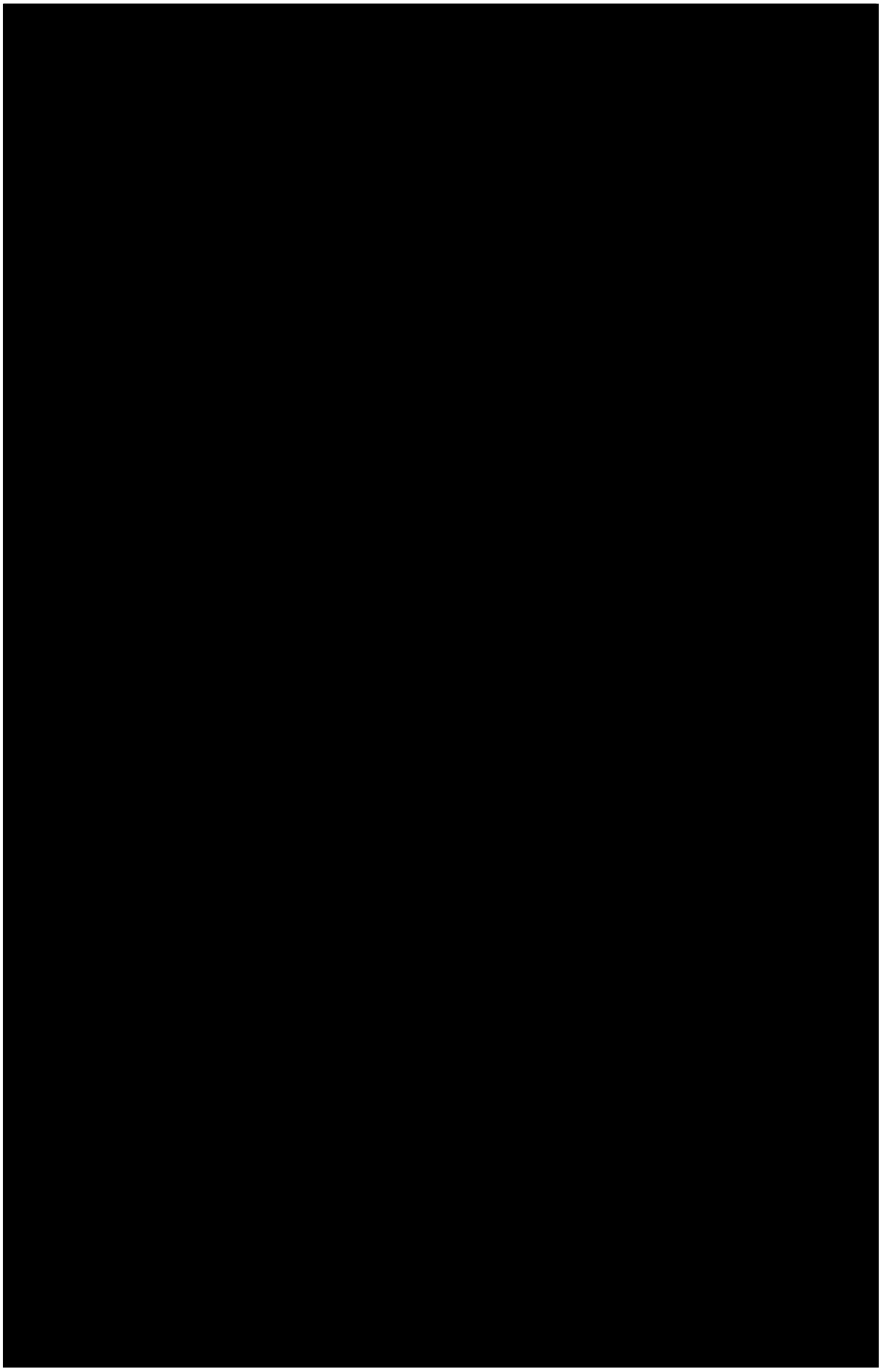
③ 運営方法



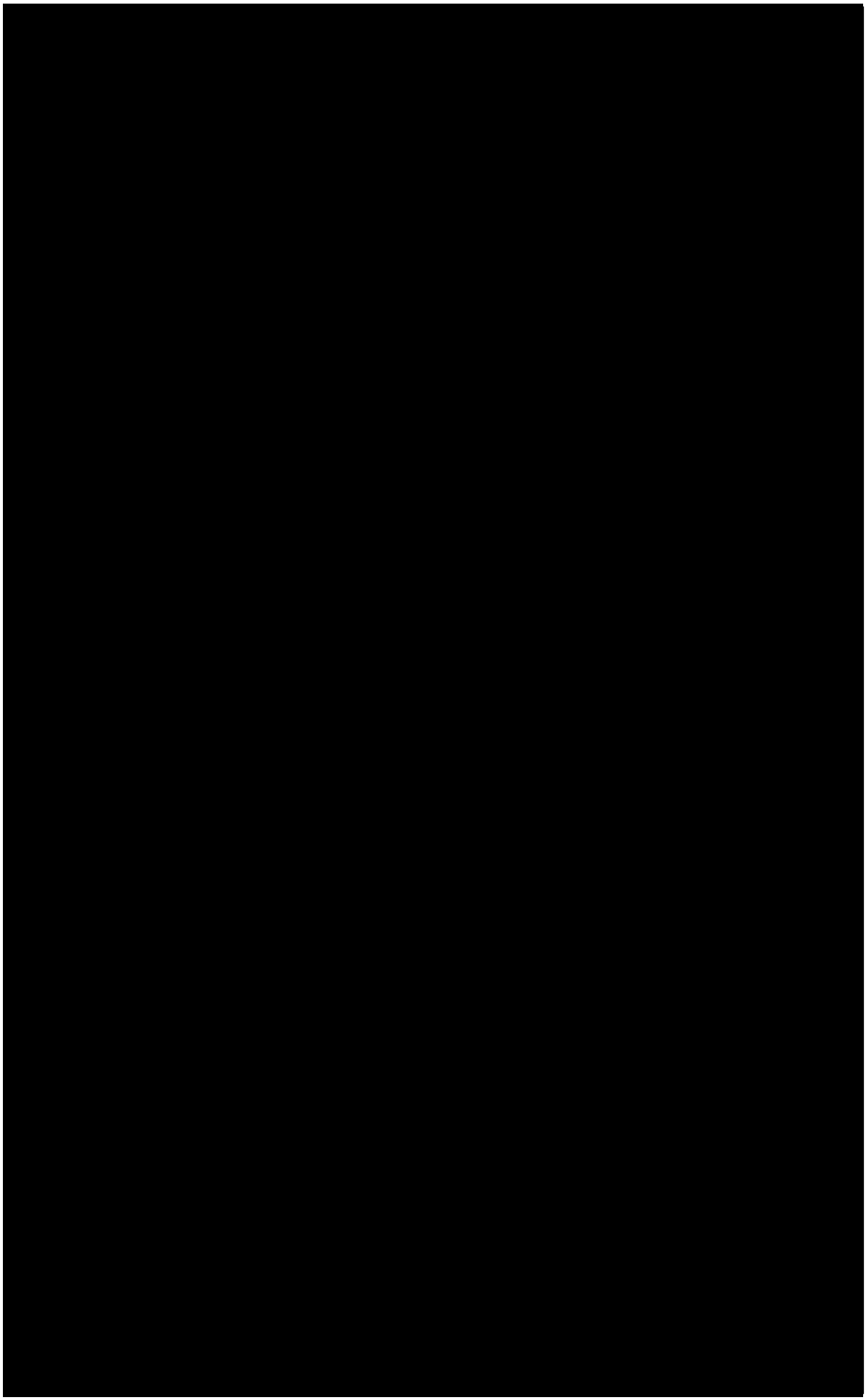
④ 商品構成



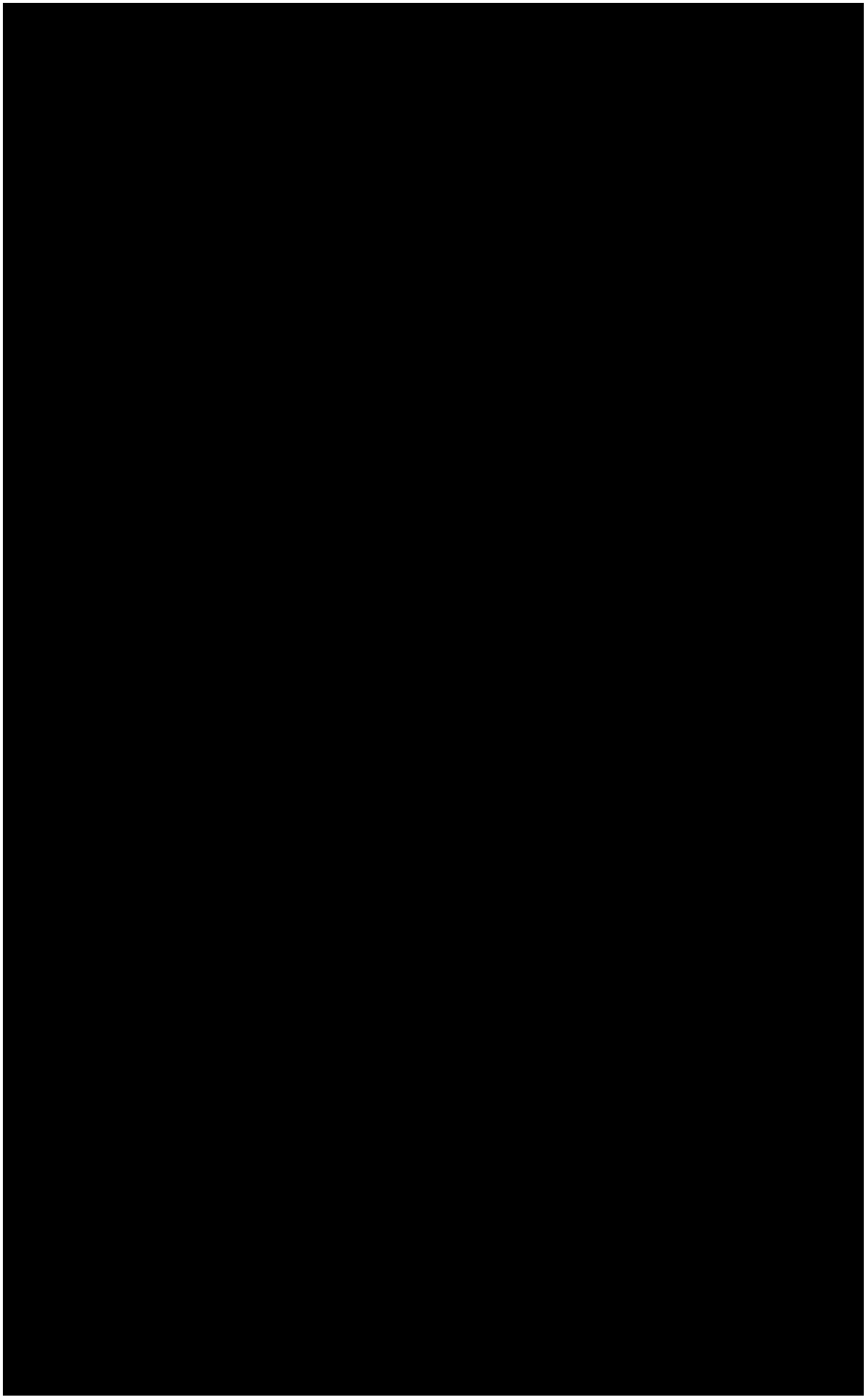
（２） 飲食施設の管理運営計画



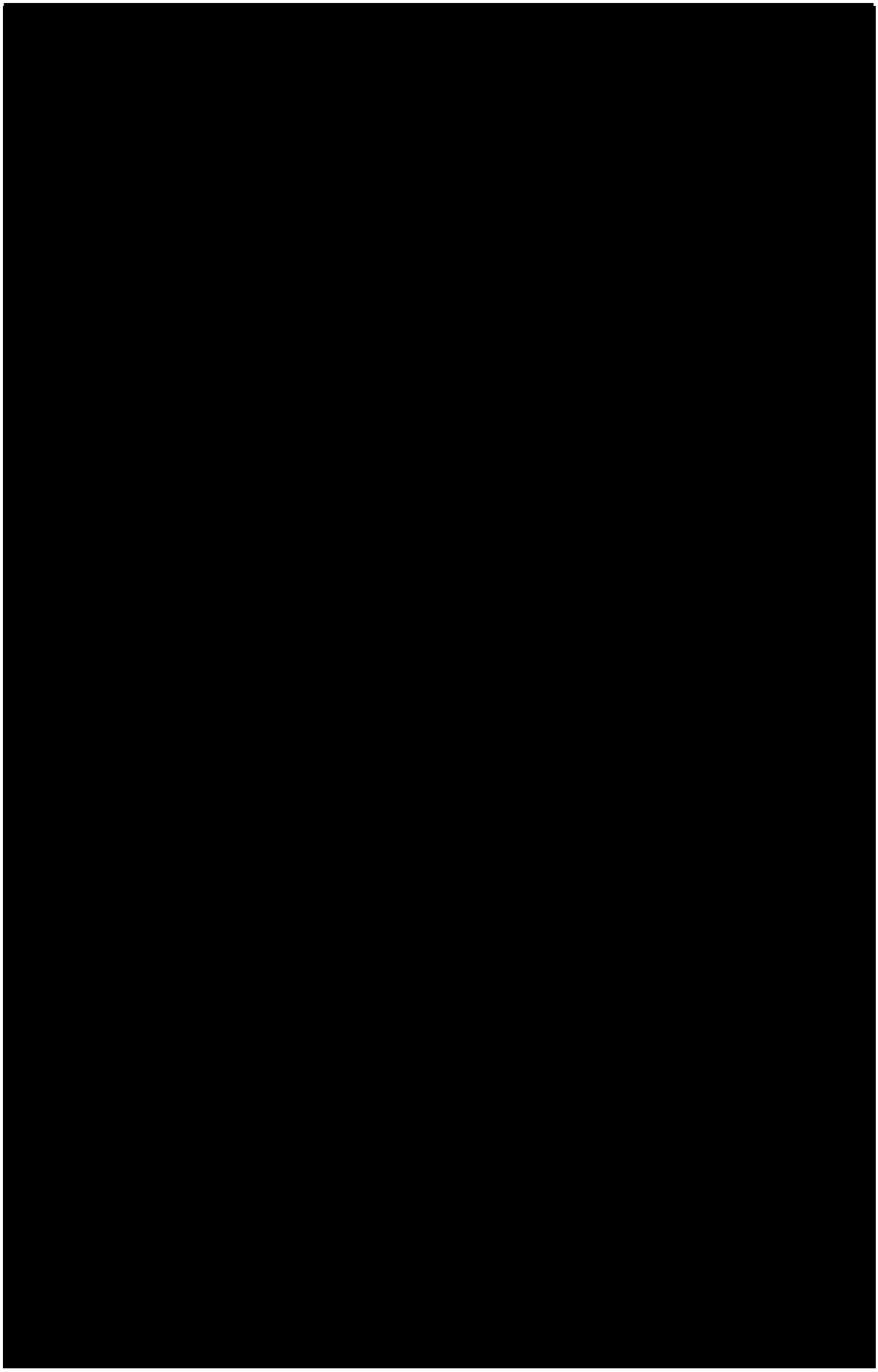
3 施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項



3　施設の効用の最大化及び管理経費の縮減に関する事項



（３） その他独自の事業の管理運営計画



7　管理経費の縮減について

持続可能な施設運営を支える経費縮減を実現します

当グループは、当施設の建設から関わり、27年間にわたって省エネルギー化や運営効率化を継続してきました。次期指定管理期間においても、設備更新を見据えたエネルギーマネジメントと経営努力により、利用者サービスの向上と管理経費の縮減を両立し、持続可能な施設運営を実現します。

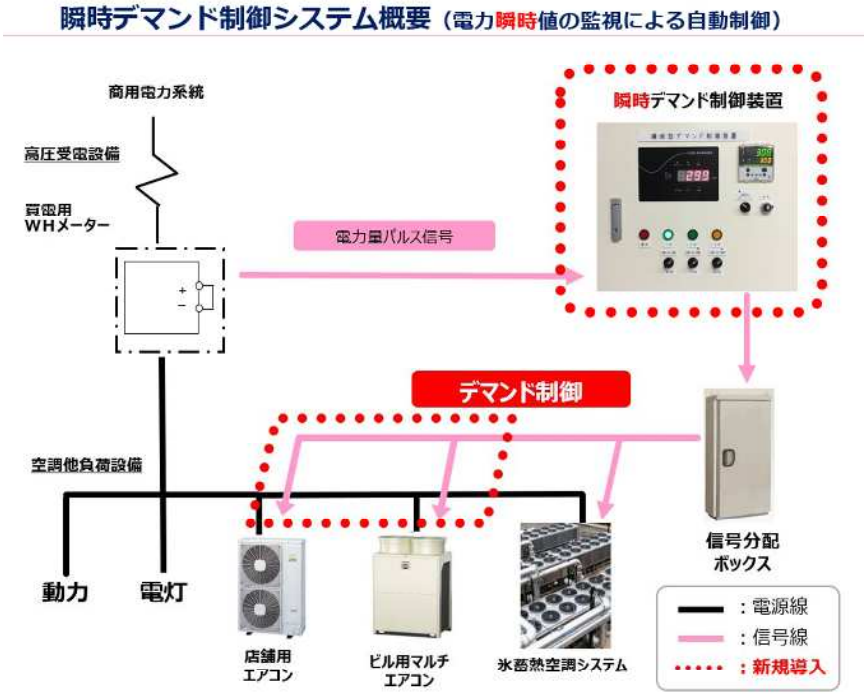
①　エネルギーマネジメントによる経費縮減

●　年間約600万円の削減実績

開館以来、省エネルギー運用に継続的に取り組み、氷蓄熱空調システムの活用や瞬時デマンド制御システムの導入により電力使用量を抑制してきました。特に契約電力は約900kw から約600kw へ低減し、年間約600万円の削減を実現しています。

●　設備更新後も省エネ効果を継続

今後想定される氷蓄熱設備からヒーポンプチラー設備への更新後においても、既存の瞬時デマンド制御システムを活用し、エネルギー使用量の最適化を継続します。設備更新による性能向上効果を最大限に引き出しながら、契約電力上昇やランニングコスト増加の抑制を図り、長期的な経費縮減につなげます。



●　環境負荷低減と脱炭素化の推進

省エネルギー化の推進は経費縮減だけでなく、温室効果ガス排出量の削減にもつながります。設備更新と効率的な運転管理の両輪により、施設の環境負荷低減を図り、佐賀県が目指す脱炭素社会の実現に貢献します。

②　運営改善による経費最適化

エネルギーコストだけでなく、備品・設備の長寿命化、共同調達の活用、デジタル化による事務効率化など、日常運営における改善を積み重ねます。運営品質を維持しながら支出を最適化し、限られた財源を利用者サービスの向上へ還元します。

1　人的能力（職員体制等）

専門性と主体性を引き出し、次期運営を支える組織・人材をつくります

（１）組織及び人数配置

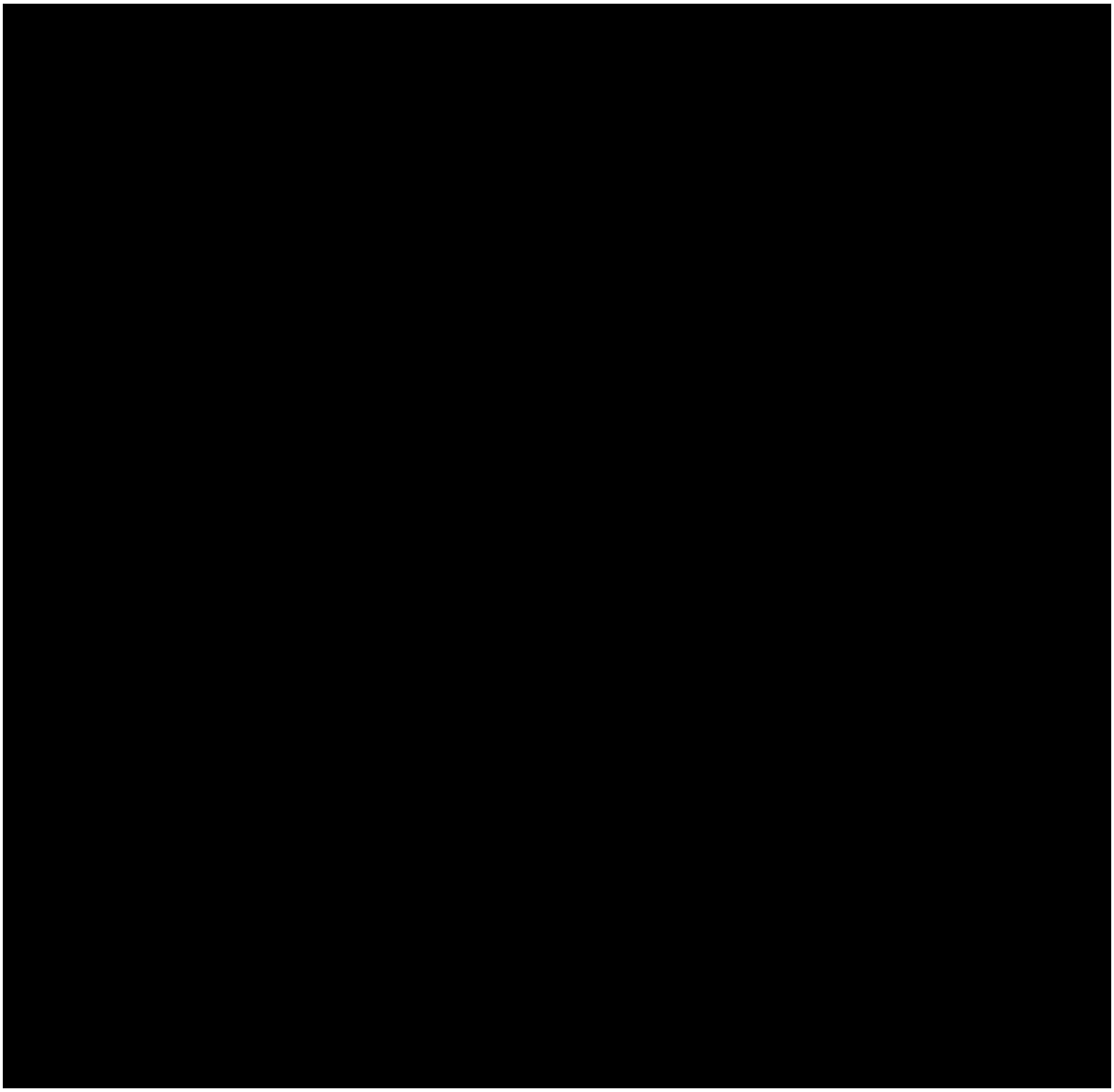
① 組織体制

第６期では、科学館としての専門性を継承しながら、文化・観光拠点化、広報・誘客、地域連携、ＤＸを推進し、安全・コンプライアンスへの対応力を一層高める必要があります。そのため、館長・統括マネージャーによる明確な統括のもと、専門職を核とする研究交流機能、広報営業機能、経営管理機能を再整理し、スタッフ一人ひとりの主体性と成長を引き出す組織体制を構築します。

管理運営の責任者である統括マネージャーと科学学習の専門的指導者としての館長のもと、経営管理、広報営業、研究交流の3グループを機能的に配置し、役割と責任を明確化します。階層をスリム化し、現場の判断力と実行スピードを高めることで、スタッフ一人ひとりの主体性と成長を引き出します。

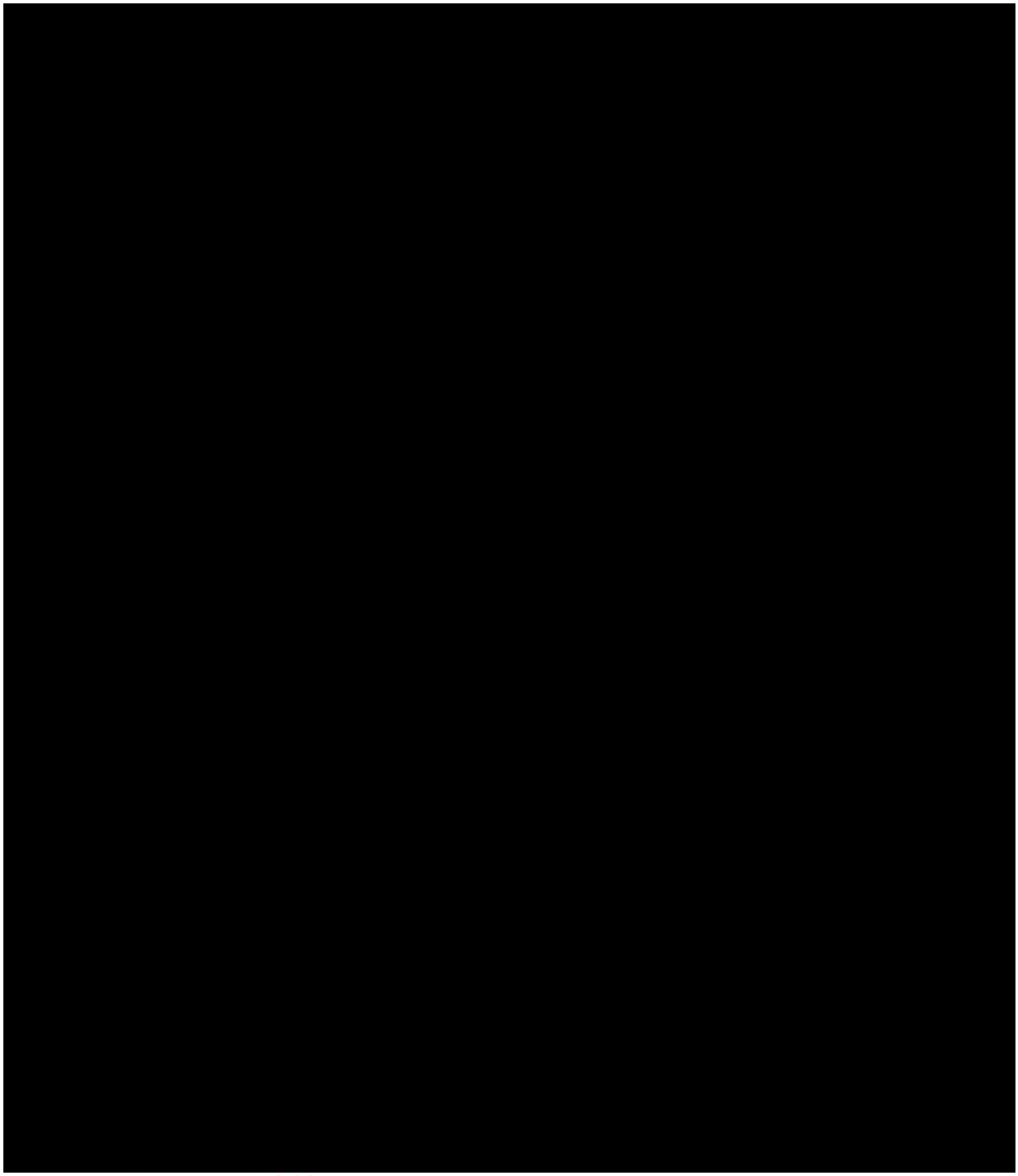
さらに、現場運営と本社支援を一体化し、専門性、機動性、安全性を高める運営体制を構築します。

【組織体制図】



② 職員

常勤中心で、専門職を含む26名の安定した職員配置に加え、科学教育における専門的指導者としての館長1名を配置した27名体制とします。また、本社の各担当社員が、現場業務を支援します。



③ 雇用形態及び勤務体制

館長以外は全員常勤とし、勤務時間や休暇取得など、働き方改革関連法に則った勤務体制とします。



（２）専門職の確保と配置

① 資格者の配置

県の科学学習拠点として、専門知識を有する人材を配置します。現在の学芸員資格者、教員免許所持者の配置状況は次のとおりです。次年度以降も当該スタッフを継続して配置します。

学芸員資格者及び教員免許所持者を継続配置することで、展示解説、企画展、学校支援、調査研究、地域連携を安定的に実施します。また、各専門分野の知見を館内で共有し、個人の経験を組織の知識として蓄積します。

館長は、専門知識及び経験の豊富な人材を配置します。

	氏　名	所　属	免許等の名称及び経歴
[redacted]			

② 管理責任者の確保について

施設の管理を担う統括マネージャーと科学に関する専門的指導者としての館長の役割を明確化し、それぞれが責任を果たしながら連携する体制とします。

（ア）管理責任者（統括マネージャー）の確保について

乃村工藝社の社員で、マネジメント経験豊富な人材を配置します

代表企業の乃村工藝社において、施設運営現場経験豊富な人材を配置します。

次期においては、これまでの科学館事業に加えて、[redacted]DX導入等の新規取組みの推進役として、本社及び他館と情報・課題共有を密に行いながら、現場における指導力を発揮します。

【役割】

- 当施設の指定管理業務全体の責任者として、運営組織を統率し、事業管理、施設管理、安全管理、危機管理の責任を担うとともに、県との連絡・協議の窓口となる役割

【人物像】

- 公共施設の管理運営における豊富な経験、知見
- 組織の責任者としてのマネジメント力、統率力

【確保の方法】

- 代表企業の乃村工藝社が、本社及び運営施設において勤務する管理職及び次世代リーダーとして育成する管理職候補者の中から、当施設の運営責任者にふさわしい人材を選任し、配置します。

（イ）館長の確保について

科学に関する専門的指導者としての館長を配置します

館の運営責任者である統括マネージャーに対し、科学・科学技術、科学学習に関する専門的指導者としての役割を担う館長を配置します。

次期の運営には、「本県の科学学習の拠点となる科学館」としての役割に加えて、文化・観光拠点としての顔となることも求められることから、ふさわしい適任者を確保します。

【役割】

- 本県の科学学習の拠点施設であり、文化・観光拠点でもある宇宙科学館の対外的な顔として、教育・研究機関や地域団体、観光関係者との連携を推進する役割

【人物像】

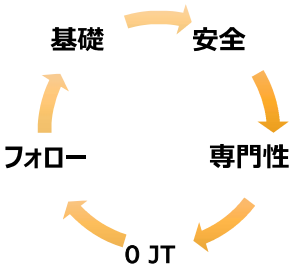
- 科学技術、科学教育等分野における豊富な経験、知見、人脈
- 科学、科学技術、宇宙等分野における普及事業の豊富な実践経験

【確保の方法】

- 代表企業の乃村工藝社が科学館等施設の展示設計施工及び運営業務等を通じて構築している科学や宇宙分野における有識者とのネットワークを活用します

（３）職員の指導育成・研修体制について

職員の指導育成に向けては基礎教育→安全確保・コンプライアンスのための研修→専門スキルを高めるための研修→0 JT（実地訓練）→フォロー研修という研修育成サイクルの下で、県立の科学館である当施設における設置者の運営代行者としてふさわしい人材育成を実施します。



段階	目的	主な内容
基礎	公共施設運営の土台形成	理念、法令、行動規範、マナー
安全	安心安全な運営の徹底	危機管理、防災、情報セキュリティ等
専門性	科学館としての価値向上	展示、企画展、プラネタリウム等事業
0 JT	実務を通じた成長	企画、準備、実施、振り返り
フォロー	定着と改善	面談、目標設定、本社支援

① 基礎研修

指定管理第６期に移行するにあたり、運営を足元から再確認し運営者としての倫理・モラルや接遇マナーを一層高めるための基礎研修を集合教育として実施します。

（ア）指定管理業務オリエンテーション

当施設の運営に関わる法令や運営理念、代表企業の経営理念及び行動規範、コンプライアンスの要点をまとめた「コンプライアンスガイド」をあらためて全員で共有します。

- 当施設運営に関する法令等（地方自治法、施設設置条例、協定書、仕様書等）
- 当施設の理念、方針、計画等
- 企業経営理念、行動規範、就業規則

「経営理念」

われわれは、人間尊重に立脚し、
新しい価値の創造によって豊かな人間環境づくりに貢献する

「行動規範」

1　法令の遵守（コンプライアンス）　2　人権の尊重
3　お客様の信頼の確保　4　公正かつ適正な業務の推進
5　政治・行政との健全な関係の維持　6　働き方、職場環境
7　環境影響の低減　8　ステークホルダーとの良好な関係の維持
9　反社会的勢力との決別　10　持続可能な経済成長と社会的課題の解決

（イ）ビジネスマナー研修

第６期への移行を機に、公共施設の運営者として求められる基本マナー、接遇等をあらためて体系的に確認するため、外部講師による研修を実施します。

- 身だしなみ、挨拶、敬語、電話応対、来客対応
- 報告・連絡・相談、メール作成、クレーム対応

②　安全確保・コンプライアンスのための研修

科学館運営において欠かすことのできない「安全管理」は、宇宙科学館で幅広い活動を行う上での前提条件となります。武雄市は令和3年に大雨による災害に見舞われており、災害に備えた危機管理は大変重要です。地震や台風、豪雨に加え、近年は猛暑も厳しさを増していることから、緊急時対応や、リスクを想定した安全教育を徹底します。

（ア）安全確保・危機管理研修

毎年実施する消防訓練は、スタッフ全員の危機管理意識を維持し高めていくための要です。消防署立会いによる避難訓練を実施するとともに、AED実地訓練や普通救命講習を受講し、事故・救命対応、不法行為、テロ等への対応、火災・地震・消防・風水害への対応など、毎年工夫をして緊張感をもって臨みます。

- 消防訓練（年2回）
- AED訓練、普通救命講習（年2回）
- 防犯研修（随時）
- テロ対処訓練（随時）



その他、緊急連絡網や自衛消防隊は年度替わりの時期に点検するとともにスタッフの退職や補充時に修正して、周知します。危機管理については全国で天災や事故等の事例が発生するごとに宇宙科学館にあてはめて対応やマニュアルを点検し、業務連絡会議を通じて共有します。

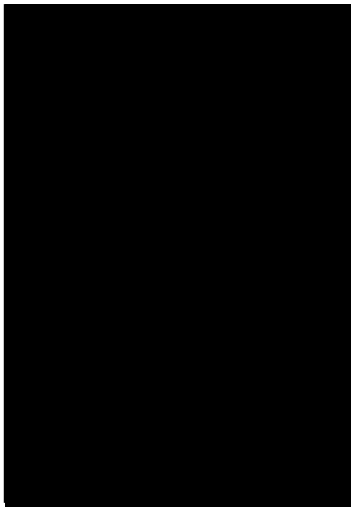
（イ）設備・展示機器の取扱い教育

スタッフやアテンダントにおいて交替が生じた際に習得できるよう研修を実施します。

（ウ）コンプライアンス教育（入社時及び随時）

情報セキュリティ、個人情報、ハラスメント等、業務推進において遵守すべき法令、社会的ルール等に関わる事故防止のための「コンプライアンスガイドライン」及び、情報セキュリティに関わる「情報管理規程」「個人情報保護規程・細則」「SNS業務利用細則」等に沿った研修、教育を実施します。

- 入社時研修
- 全社員を対象としたコンプライアンス教育eラーニングの受講（随時）
- 情報事故等の事例共有（随時）



③ 専門スキルを高めるための教育

（ア）　接客接遇研修

利用者対応の要となるアテンダントにおいて、次の研修を予定します。

[redacted]

（イ）科学館スタッフとしての専門性向上研修

学術団体や研究機関、専門研究者、他の科学館や類似施設職員との交流や連携、外部で開催されるセミナー等を通じて科学館スタッフとしての専門性を高めていきます。

- 加入団体や関連団体との交流や外部研修会への参加

  学会、団体の研究大会、研修会、講習会等に、ローテーションによる選抜でスタッフを派遣する他、学術団体や関連団体のセミナー、講座等、スキルアップにつながるプログラムへの参加を支援します。

＜加入団体・関連団体＞

[redacted]

④ ＯＪＴ、フォロー研修（専門知の継承、次世代リーダー育成）

実務を通じ、専門知の継承と次世代リーダーの育成を図ります。

（ア）　専門知の継承

展示解説、企画展準備、学校支援、調査研究、地域連携業務において、担当者間でノウハウを共有します。特定職員に知識や経験が偏らないよう、記録化、勉強会、担当ローテーションにより、専門知の継承を図ります。

特に新しい企画展やイベント担当者として企画提案、準備、実施を通じて身に付けるものは大きく、計画的に担当者をローテーションします。またスタッフの育成・成長状況や随時発生する課題・問題に対して、本社部門も一緒になり適切なフォロー教育を実施します。

（イ）　次世代リーダー育成

マネージャー、サブマネージャーを中心に、若手・中堅職員が企画展、学校連携、広報、地域連携、安全管理等の実務を段階的に経験できるよう、担当ローテーションとＯ ＪＴを計画的に実施し、次期を担う人材として育成します。

（４）職員の地元雇用について

① 職員等の雇用についての考え方

直接雇用スタッフは、館長を除く全員が県内在住です。

今後も県内人材中心の体制を維持します。

県立の宇宙科学館として、可能な限り佐賀県内からの雇用に努めます。宇宙科学館に配置しているスタッフ全員が佐賀県在住であり（館長は単身赴任の都合で住民票は県外）雇用創出効果を果たしていると考えます。学芸員等の専門性の高い職種についても県内から積極的に採用する一方で、Ｉターン、Ｊターン組も在籍しており、佐賀県への移住効果も果たせています。今後も県民による県立宇宙科学館の運営を目指していきます。

② その他

指定管理者の直接雇用スタッフ以外でも地元雇用の促進に寄与します。

上記の指定管理者構成員が直接雇用するスタッフ以外についても地元雇用が促進されるよう、次のような取組みを継続して行っていきます。

- 松尾建設グループの[redacted]が雇用するアテンダントスタッフについても、退職者発生の際の補充は地元雇用を優先します。
- 同様に施設運転管理要員や警備員、清掃員等の施設維持管理スタッフも地元雇用を行います。
- 繁忙期や企画展開催時には地元より臨時のアルバイトを雇用しています。
- 直接の障がい者雇用は行っていませんが、[redacted]に恐竜のオリジナルクッキー等のオリジナル商品の発注仕入れや繁忙日に出店してもらうなど障がい者福祉団体との連携を行っており、これらの活動を通じて障がい者雇用に寄与します。

（以下、余白）

2　事故・災害時の対応体制

事故への備えと未然防止に向けた教育・訓練を徹底します

2019年及び2021年の佐賀県豪雨災害は激甚災害に指定され、当施設のある武雄市においても大きな被害が発生しました。近年は気候変動の影響により、大雨や台風などの自然災害が激甚化・頻発化しているほか、熱中症リスク、感染症、情報漏えいやSNSによる風評被害など、施設運営を取り巻くリスクは多様化しています。

当施設は、多くの家族連れや学校団体が利用する施設であり、有事においては利用者の安全確保を最優先に行動することが求められます。当グループは「命を守る行動」を基本方針とし、教育・訓練、マニュアル整備、ヒヤリハット共有、事例の蓄積を一体的に運用し、事故の未然防止と初動対応力の向上に継続して取り組みます。

（１）事故防止などの安全管理対策・体制

（ア）マニュアル整備：危機対応の標準化

地震や台風などの天災をはじめ、火災・不審者・不審物などの対応について、「宇宙科学館危機管理マニュアル」を整備しています。危機発生の動向に則して内容を更新しています。利用者との接点の多いアテンダント業務においては「アテンダント業務における緊急マニュアル」を委託先と連携して作成しており、有事の際の利用者への案内など具体的な対応について定めています。

マニュアルの内容については、関係法令や社会情勢の変化、業務運営上の必要性等を踏まえ、定期的な確認を行うとともに、必要に応じて適時・適切な見直し及び改定を実施します。

【マニュアルの内容】（一部）
緊急時連絡体制、緊急時の基本動作、避難誘導、緊急時の状況、災害発生時の対応、報道機関への対応の留意点、苦情（クレーム）等への対応、常識的ではない館内行動への対応、個人情報の保護、食中毒等発生時の飲食対応、応急処置と医薬品の使用基準、館内放送の例（地震・火災関係）、エレベーター緊急時のインターホン対応例

（イ）教育・訓練：実践力の向上

地震・火災を想定した避難訓練・消火活動などの訓練のほか、不審者への対応や全館停電の実地シミュレーション、エレベーター閉じ込め救出訓練など、具体的に起こりえる状況を想定し実践的な研修や訓練を行っています。これにより、実際に発生した場合にもスタッフが冷静に対応ができるようになっています。

また、コンプライアンスを遵守するとともに、情報事故等を防ぐため、乃村工藝社の「コンプライアンスガイド」を活用して教育を行っています。過重労働やハラスメントの防止、人権の尊重など、宇宙科学館の信頼を守るために重要な取組みと考えています。

【主な訓練・研修】
- 避難・消防訓練
- 救命講習
- AED心肺蘇生法講習
- エレベーター閉じ込め救出訓練
- 模擬停電シミュレーション
- 不審者対応講習（テロ対策等）



（ウ）事故・ヒヤリハット共有：未然防止

利用者には子どもも多く、体験装置などは怪我をするリスクを常にはらんでいます。ヒヤリ・ハットの気づきを全員で共有することで、事故を未然に防ぐことができます。朝礼や終礼において全員で共有し、危険の芽があれば摘み取っていきます。

事故・ヒヤリハット情報は、朝礼・終礼での共有にとどめず、内容、原因、対応、再発防止策を記録し、必要に応じてマニュアルや研修内容に反映します。現場で得られた気づきを組織的に蓄積し、事故の未然防止と対応力の向上につなげます。

また、乃村工藝社では工事等の業務における事故を管理職者に発信して共有しています。全国の運営施設における事故の情報も水平展開されており、多くのケーススタディを活用して事故防止に取り組むことができます。館内での安全管理対策に活用できる情報について各スタッフに情報共有し、注意喚起を行います。

（エ）維持管理・警備：専門会社との連携

建物や展示を安全に運用するためには、適切な維持管理・保守管理が必要です。建物・設備についてはJV構成企業である、松尾建設グループのマベックが担当します。展示装置については、乃村工藝社グループの展示メンテナンス専門会社である[redacted]が担当します。安全を担保するための予防措置と、長寿命化のバランスをとりながら適切に管理します。

また、24時間常駐の警備員については、安全管理に重要な役割を持っています。[redacted]を再委託先として、即応体制を構築しています。有事には[redacted]から応援部隊が急行して対応します。

（オ）保険・収蔵庫管理：万一への備え

●収蔵庫の管理

収蔵庫は貴重な資料を管理し、次世代に継承していくために重要な施設です。年一回の燻蒸による殺虫の他に、日常の出庫・入庫の管理や、人の出入室にも注意を払う必要があります。収蔵庫の入室においては、履物を替えるだけでなく衣服のほこりを掃い収蔵庫の虫菌害を防ぎます。

●保険への加入

賠償責任保険（施設・エレベーター）、やボランティア保険、レクリエーション保険、収蔵品火災保険に加入し、事故等に備えます。

[redacted]

（２）事故及び災害時の対応体制

前項の豪雨をはじめ、人命にかかわる大きな災害が全国どこでも起こりえる状況があります。特に大雨や台風に関連する災害は頻発しており、それらに備えることが非常に重要になっています。事故や災害が起こった場合には、前項のマニュアルに沿った対応として、緊急連絡体制に則って関係各局に連絡を行います。災害のリスクや発生状況に応じて、職員の参集基準及び対策本部の設置基準を定め、統括マネージャーを本部長とした指揮命令系統に則り対応にあたります。「命を守る行動」を念頭に、「備え」を活かして的確に対応を行います。

台風・豪雨・地震等の災害発生時には、気象警報、避難情報、交通機関の運行状況、施設被害の有無、利用者及び職員の安全確保の観点から、統括マネージャーが状況を把握し、設置者と協議のうえ、開館継続、臨時休館、イベント中止、避難誘導等を判断します。判断結果は、館内放送、ホームページ、ＳＮＳ、予約団体への連絡等により速やかに周知します。

【対策本部】

構成員	任務内容（発生時・収束後）
● 統括マネージャー（本部長） ● 経営管理マネージャー（副本部長） ● 広報営業マネージャー（統括マネージャー兼務） ● 経営管理グループスタッフ	・ 対応方針の決定 ・ 職員召集、対応方針に基づく指示・伝達 ・ 県文化課・警察・消防等関係機関への対応 ・ 被害者への対応（見舞い等） ・ マスコミ等外部への対応 ・ 対応の評価、改善策の周知

（ア）　初期対応と緊急連絡

代表企業の運営する施設において、スタッフの救命措置が功を奏し、利用者が一命をとりとめたことがあります。傷病人だけでなく、火災や不審者等についても初期対応が非常に重要となります。常に自らが当事者になる意識をもって行動できる状態を保ち、落ち着いて初期対応にあたります。同時に前項の緊急連絡体制に沿って館内外への周知を行い、各担当がそれぞれの任務を遂行します。

（イ）　職員配備と安否確認

休館中の災害にあたっては、人命を最優先とし、状況に応じて設置者との連絡や関係先・委託先への指示を行う責任者として、統括マネージャーないし経営管理マネージャーを科学館に配備します。危険と判断した場合は委託先を含めた全員撤収も視野に入れ、どんな時も人命優先で行動します。

また、災害以外の事故においては、対策本部を設置・参集し、組織的な対応を行います。スタッフの安否確認については、各セクションで連絡を取り管理職者に報告します。震度6以上の地震などの大きな災害の場合には、乃村工藝社が利用している[redacted]も発動し、スタッフの家族も含めた安否を確認します。

[redacted]

（３）利用者からの意見に対する対応

利用者の声を単なる苦情として処理するのではなく、記録、共有、原因分析、改善につなげることで、再発防止とサービス品質の向上を図ります。

意見・苦情は対面、アンケート、電話、メールなど色々な形で入ってきます。発生する場面も、受付、レストラン、駐車場など様々です。利用者から寄せられるご意見は、施設改善につながる貴重な声である一方、内容や要求の程度によっては、現場スタッフのみでの対応が困難な場合もあります。いずれの場合も初動を大切にし、丁寧な傾聴と事実確認を行ったうえで、必要に応じて上位者へ速やかに引き継ぎます。

（ア）苦情等トラブル対応の基本的な考え方

苦情が発生した場合は、それがいかなる内容であっても、相手の言い分をしっかりと聞きとり、対応可能なものは対応する姿勢・行動を示し、対応不可能なものについては対応できない旨とその理由をきちんと伝えます。また、担当スタッフのみで対応が困難な場合は上位者に報告し、エスカレートした際には統括マネージャーが中心となって解決を図ります。

（イ）苦情等トラブルの未然防止

● 利用者対応における心得

利用者からの苦情を受ける窓口となるのが、アテンダントです。そこで、アテンダントグループでは、接客の指針である「クレド」を常に携帯し、毎朝、クレドの項目を唱和して、自身の役割を再確認します。また、カスタマーハラスメントやアンガーマネジメント研修なども定期的に受講し、お客様の心に寄り添う、より良いコミュニケーションのスキルを磨いています。全体朝礼の後にグループ朝礼を別に設け、情報の伝達とともにクレドを読み上げます。アテンダントの役割と心得を意識することでトラブルの未然防止に繋げます。また、コミュニケーション術の一環として苦情対応を取り上げた外部講師による研修を実施します。

[redacted]

（ウ）苦情等トラブルの対応策

● マニュアルに基づく対応

危機管理マニュアル及び苦情対応に関する運用ルールに基づき、受付、記録、報告、対応方針の決定、再発防止策の共有までを一連の流れとして管理します。

[redacted]

● 即時対応可能な場合

基本的にはまず現場のスタッフが対応します。利用者の苦情に現場で応えるには、スキルや日々の鍛錬が必要です。対応一つでその印象は大きく変わります。お客様の話をよく聞き、全体像を捉えた上で明確に回答ができる場合は、現場で自信をもって回答します。

お客様対応における大切なこと

✓ 注意深く話を聴き、相手は何が必要なのか理解に努める。

✓ 顧客を見下すような言い方や正論を避け、顧客にこうすべきだったと言わない。

✓ 要求をただ拒否するのではなく、協力して解決策を見つける意識で対応する。

● 解決に時間を要する場合

常識的ではない行動の場合には、担当者がその場で回答することは控え、上位者に繋ぎ、対応の場所を移し、原則的には経営管理グループと統括マネージャーで対処します。理不尽な見返りの期待がある場合などは、これを調整します。また正当な苦情で直ぐに解決できない内容は、丁寧に事情を伝えた上で時間をいただき、マネージャー会議で対応方針を検討・決定し改善します。これらの苦情については速やかに県の文化課に連絡し、対応内容を報告書にまとめ、提出します。

（エ）再発防止のための情報共有と改善

- 苦情の内容と対応については、全スタッフに朝礼やメールで周知し共有します。
- 苦情報告書とは別に、軽微でも残しておくべき苦情や対応を過った例などは苦情として記録し、教訓とします。
- お客様からの苦情は、お客様の不満や期待に応える改善の機会であり、場合によっては新たなサービスにつなげるチャンスともいえます。小さな声（不満）から本質的な課題を見つけ出し、小さな改善を積み重ねることで、再発防止とより良いサービスに繋げます。

【実績】お客様のご意見・苦情から改善に繋げた例

◆チケットを欲しがる乳幼児のための代替機能の提供

本来、観覧料が免除される乳幼児（0～3才）には観覧チケットの配布がなく、ご家族でご来館時に泣いてチケットを欲しがるお子様が多く見受けられ、チケットの代替を求める保護者のお声が多く寄せられていました。

そこで、お子様の要望に寄り添うべく、スタッフが折り紙で小さな手作りのアームリングを作成して好評を得ていました。現在は折り紙製から、より子供の目を引くキラキラしたライン入りの赤・水色・黄色の三色のリボンタイプに仕様変更し、観覧料の発生しない乳幼児の“ごきげんな特別チケット”として喜ばれています。



乳幼児用のアームリング型「特別チケット」

（４）個人情報の保護

個人に関する情報の取扱いにあたっては、「佐賀県立宇宙科学館の個人情報保護に関する要綱」を遵守するとともに、乃村工藝社が取得しているプライバシーマークに準拠した「個人情報保護規則」とPM S（個人情報保護マネジメントシステム）に則り個人情報を管理します。

なお、オンラインチケッティング等で取得する利用者情報は、取得目的と利用範囲を明確にし、個人情報保護規程に基づき適切に管理します。利用状況の把握やサービス改善に活用する場合も、目的外利用や不要な第三者提供が生じないよう管理を徹底します。



プライバシーマーク登録証
（2024年9月5日～2026年9月4日）

＜規程＞

- 佐賀県立宇宙科学館の個人情報保護に関する要綱
- 特定個人情報の取扱いに関する基本方針
- グループ行動規範
- プライバシーポリシー
- 個人情報保護規程
- 個人情報保護細則
- 個人情報保護管理マニュアル
- 情報管理規定
- 情報端末管理細則

（ア）個人情報保護管理体制

[redacted]

（イ）個人情報保護のポイント

個人情報保護についてスタッフに研修を行う際に、特に理解させるべきポイントは次の通りです。

項目	管理内容
取得時の管理	当社の情報管理規程に則り管理し、個人情報保護管理者を任命します。また、新規のスタッフを配置する場合は、必ず個人情報保護教育を実施します。
利用目的の明示	個人情報を収集する際には必ず収集目的を表示し、対象者から同意を得ます。個人を識別できる写真を取り扱う際にも留意します。
台帳管理	入手した個人情報を特定し、情報の内容や媒体の種類、保管場所・方法を特定票として台帳化します。
保管・アクセス管理	紙媒体等については施錠管理を行います。PCで情報を扱う場合は、アクセスに対するセキュリティを施し、一元管理を行います。また、情報システムにおけるウィルス対策、アクセス制限、アクセス記録といった技術的な管理措置が整備されたネットワーク環境上で業務を行います。
委託先管理	個人情報を扱う業務を委託する場合は、審査を経た指定業者以外には発注しません。個人情報の受け渡しが発生する場合は受渡記録を作成します。
破棄・削除管理	収集目的を達した個人情報については適正な処分を行います。また、台帳上で処分記録を残します。

（ウ）職員に対する意識啓発や研修等について

次のプログラムで個人情報の保護を徹底していきます。

- **指定管理第６期をむかえるにあたってのオリエンテーション**（令和9年4月開催予定）

  コンプライアンス研修の時間をとり、特に個人情報の保護を再認識・徹底させます。

- **入社時の教育**

  就業規則等の説明と合わせて、個人情報及びコンプライアンスについて研修を行います。

- **フォロー研修：コンプライアンス教育eラーニングの受講**

  自社のメディアサイトで配信するeラーニングプログラムを受講します。

- **情報事故等の事例共有**

世の中で個人情報に関する事故等（例えば情報流出）が発生した場合は、本社部門より運営施設全体に情報を水平展開します。統括マネージャーはこれをメール共有や朝礼伝達等で、スタッフに周知します。

（エ）個人情報の取扱い方針の開示

ソーシャルメディアガイドラインを定め、ソーシャルメディアの運用における個人情報の取扱いについても明記し、ホームページで公開します。

（５）情報公開

情報開示請求があった場合には「佐賀県情報公開条例」を遵守し、佐賀県の指導の下で適切に開示します。条例にもある通り特に次の情報については非開示もしくは部分開示しない場合がありますので県と相談・協議の上で対応します。

- 個人に関する情報。
- 企業ノウハウに関する事項の開示等、明らかに自社の不利益となる情報。

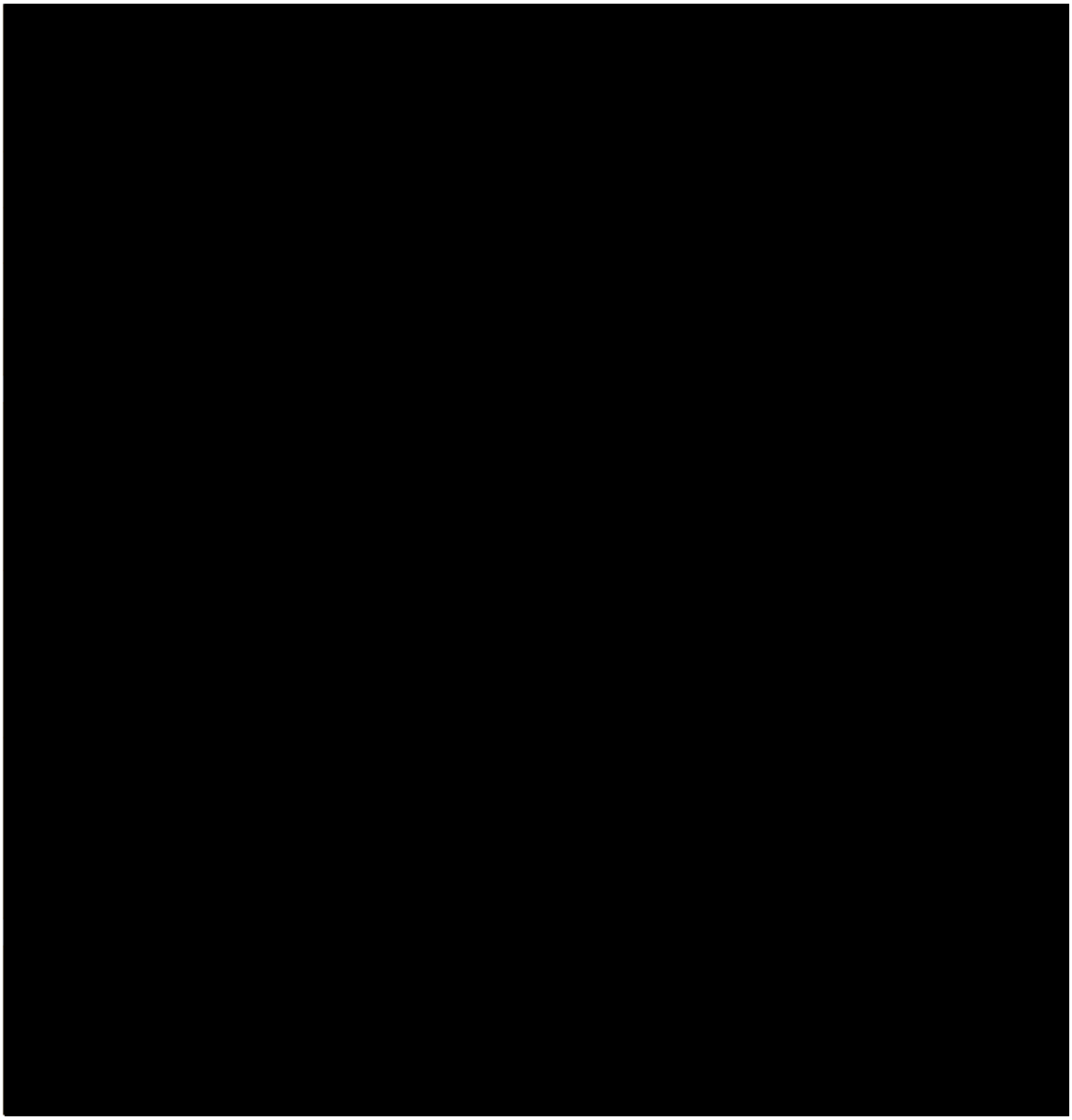
3　経理的基盤

乃村工藝社、マベックとも財務状況は健全です

（１）財務状況

共同事業体２社の財務状況は下表の通り健全な状況にあり、継続して事業を提供していくうえで問題はありません。詳細につきましては添付申請資料・財務諸表をご参照ください。

【共同事業体代表企業・構成員財務状況】



※乃村工藝社の売上高・営業利益・経常利益・当期純利益及び自己資本比率は2026年2月期連結決算値です

（２）金融機関、出資者等の支援体制

当施設の指定管理者事業を推進していく上での運転資金は、構成員企業の経常の運転資金の中でまかないます。

4　県内発注の考え方

佐賀県への経済波及効果の最大化に努めます

（１）　再委託（清掃業務等業務委託）についての業者選定の考え方

県内で対応できない一部の業務を除き、県内発注を原則に業務を推進します

各業務の取引企業の選定においては、佐賀県の取組みである「ローカル発注」に賛同し、「佐賀県ローカル発注促進要領」に沿って、地場企業、県内企業を優先する発注・調達を行い、経済の活性化や地域の雇用に貢献します。

発注にあたっては、県内企業で対応可能な業務・物品を事前に確認し、品質、専門性、納期、価格、安全性を総合的に判断したうえで選定します。特殊、専門的な技術を要する業務で県外発注が必要な場合も、県内企業との連携、仲介、共同制作の可能性を検討し、県内への経済波及効果を高めます。例えば、ミュージアムショップのオリジナル商品を制作する場合も、可能な限り県内メーカーの仲介のもと製品化を進めます。

【県内で対応できない県外発注の業務】

[redacted]

（２）　管理運営に必要な物品の調達等についての考え方

物品の調達等についても、下記に示すような合理的な理由がない限り県内発注を原則とします。一般的なオフィス用品の通信販売を利用して事務用品を購入する際にも、県内業者を経由するように代理店手続きを特別にとるなど、可能な限り県内発注を行います。

【理由により県外発注する業務】

[redacted]

5　事業実績

20年の運営実績と全国の科学館・博物館運営ノウハウを継承します

①　共同事業体管理運営実績

当グループは、乃村工藝社による開館時からの運営実績と、マベックによる20年にわたる設備管理実績を有しており、共同事業体として佐賀県立宇宙科学館を最も熟知する事業者の一つです。開館以来培ってきた施設特性への理解、展示運営ノウハウ、設備管理ノウハウ、学校団体対応の知見、地域とのネットワークを活かし、第６期においても安全・安心な運営とさらなる施設価値の向上に取り組みます

佐賀県立宇宙科学館（県立、科学館、指定管理者）

設置者	佐賀県
立地	佐賀県武雄市
施設規模	敷地面積　45,364㎡ 延床面積　8,292㎡
運営形態	指定管理者
運営期間	2006年4月より運営継続 ■乃村工藝社：代表企業 ■マベック：2006～2021年請負 2022年～構成員
当施設の運営に活かせる実績	■乃村工藝社 2006年から20年以上にわたり代表企業として運営を担い、展示の設計施工から日常運営、展示更新まで一体的に実施してきました。この経験を活かし、第６期では学校利用の拡大、展示体験の向上、企画展やイベントの充実、観光振興との連携強化を推進します。 ■マベック 設備管理業務を通じて蓄積した施設特性への理解と技術的知見を活かし、予防保全による設備の長寿命化、緊急時の迅速な対応、安全で快適な施設環境の維持に取り組みます。



②　代表団体（株式会社乃村工藝社）同種施設管理運営実績

共同事業体代表団体である株式会社乃村工藝社は、2005年の長崎歴史文化博物館指定管理者受託を契機に、公立博物館・科学館等の運営事業を全国に展開し、現在は全国19施設の運営に携わっています。施設の価値を最大化することを目的に、資料収集・調査研究を含む施設全体の総合的・包括的な運営実績とノウハウを蓄積してきました。特に、県立施設の指定管理、科学館運営、展示更新と運営を一体で担う事業、地域連携・観光振興に資する運営において実績を有しています。

これらの経験とノウハウを活かし、当施設の機能の特色である「科学学習の拠点」「体験型の科学館」「文化・観光拠点」「県民協働の場」としての機能をさらに高め、施設価値と利用者サービスの向上に取り組みます。次ページ以下に、当施設の第６期運営に活かすことのできる同種施設の管理運営実績を示します。

4　事業計画に沿った管理能力に関する事項

長崎歴史文化博物館　（県・市共同設置、歴史系博物館、指定管理者）

設置者	長崎県・長崎市　共同設置
立地	長崎県長崎市
施設規模	敷地面積　14,413㎡ 延床面積　13,309㎡
運営形態	指定管理者
運営期間	2005年11月より運営継続
当施設の運営に活かせる実績	県・市が設置する歴史文化施設において、資料の保存活用を含む包括運営を開館時より継続。県・市共同設置施設の運営を通じて培った公共施設運営のノウハウを活かし、県立施設として求められる公共性、ガバナンス、専門性を確保するとともに、観光振興や地域活性化への貢献を推進します。



埼玉県立川の博物館（県立、文化・観光施設、指定管理者）

設置者	埼玉県
立地	埼玉県寄居町
施設規模	敷地面積　47,309㎡ 延床面積　5,438㎡
運営形態	指定管理者
運営期間	2008年4月より運営継続
当施設の運営に活かせる実績	屋外施設や大型体験施設を含む河川系総合博物館を包括運営。広大な敷地や屋外体験施設を有する総合博物館の運営経験を活かし、屋外展示や自然体験プログラムの活性化、ファミリー層を対象とした滞在型利用の促進に取り組みます。



多摩六都科学館（科学館、指定管理者）

設置者	多摩六都科学館組合
立地	東京都西東京市
施設規模	敷地面積　15,704㎡ 延床面積　6,868㎡
運営形態	指定管理者
運営期間	2012年4月より運営継続
当施設の運営に活かせる実績	5市共同設置の広域科学館において、展示リニューアル、ワークショップ、教室、プラネタリウム等を通じ、利用者数と満足度の向上に取り組んできた実績を活かします。



浜松科学館（科学館、指定管理者）

設置者	浜松市
立地	静岡県浜松市
施設規模	敷地面積　9,911㎡ 延床面積　6,892㎡
運営形態	指定管理者
運営期間	2019年7月より運営継続
当施設の運営に活かせる実績	DBO方式により、展示の全面リニューアルと10年間の運営を一体で担う事業を実施。展示リニューアルと長期運営を一体で担った経験を活かし、企画展やサイエンスショーの充実、DXを活用した利用者サービスの向上、地域と連携した科学館運営を推進します。



③　構成団体（株式会社マベック）同種施設管理運営実績

構成団体の株式会社マベックは、佐賀を拠点に昭和60年（1985年）の創業以来、ビルの総合管理を通じてお客様の大切な資産を守り続けてきました。令和7年（2025年）7月には創業40周年という大きな節目を迎え、これまでに培った豊富な実績と専門知識、そして現場で磨き上げてきたノウハウを武器に、空調・給排水・衛生管理から法定点検まで、ビル運営に関わるあらゆる場面でお客様に安心をご提供しています。単独での指定管理者実績はもとより、他企業との企業共同体（コンソーシアム）による大規模公共施設の運営にも参画するなど、公共性の高い施設運営においても確かな実績を重ねています。

佐賀県立佐賀城本丸歴史館（県立、文化・観光施設、請負）

設置者	佐賀県
立地	佐賀県佐賀市
施設規模	敷地面積　35,000㎡ 延床面積　2,500㎡
運営形態	請負
運営期間	2004年から22期目
当施設の運営に活かせる実績	本館は佐賀県の歴史と文化を発信する中核施設であり、設備の安定稼働と利用者の安全・快適性を支える業務に従事。県立文化施設における設備管理実績を活かし、法定点検や予防保全を確実に実施します。



SAGAサンライズパーク（県立、スポーツ、文化、指定管理者）

設置者	佐賀県
立地	佐賀県佐賀市
施設規模	敷地面積　164,682㎡ 延床面積　67,655㎡
運営形態	指定管理者（コンソーシアム）
運営期間	2020年から7期目
当施設の運営に活かせる実績	佐賀県のスポーツ・文化振興の象徴となる中核施設において、設備の安定稼働と来場者の安全・快適性を支える業務に従事。大規模県有施設の管理運営経験を活かし、多様な業務委託先との連携、緊急時対応、利用者の安全確保など、公共施設に求められる総合的な管理能力を発揮します。



支出計画明細書（人件費、管理費）

（単位：千円）

[redacted]

支出計画明細書（人件費、管理費）

（単位：千円）

[redacted]

支出計画明細書（事業費）

（単位：千円）

[redacted]

支出計画明細書（事業費）

（単位：千円）

[redacted]

支出計画明細書（事業費）

（単位：千円）

[redacted]